～ みんなで描こう、将来の姿 ～

ハ コ モ ノ

福生の 公共施設 未来トーク

（令和２年２月９日開催）

報告書

令和２年５月

福　生　市

～みんなで描こう、将来の姿～

福生のハコモノ（公共施設）未来トーク

（令和２年２月９日開催）報告書

目次

１　事業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　市長挨拶　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

３　基調講演　まちの資産の活用をジブンゴトに

～共創を通じた未来の公共空間再考～・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

４　福生市の公共施設の歴史、現在の取組、今後のスケジュール・・・・・・・・・・１８

５　令和元年実施　地域懇談会の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５

６　ディスカッション「福生市の公共施設の将来の姿」・・・・・・・・・・・・・・・３１

７　質疑応答（全体を通して）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

８　その他～閉会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０

９　参加者からお寄せいただいたコメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

広報に用いた、

チラシ・ポスター

１　事業の概要

（１）趣旨

本事業は、令和２年度末までに福生市で行う個別施設計画の策定にあたり、公共施設の現状と課題、再配置基本方針を市民と情報共有し、これからの市の取組について、登壇者をはじめとした市民と行政とが共に考えるため、シンポジウム形式で開催したものです。

（２）日時：令和２年２月９日（日）午後２時から４時

（３）会場：もくせい会館３階会議室

（４）参加者数：８０人

（５）プログラム（次第）

①　市長挨拶 加藤　育男　福生市長

②　基調講演「まちの資産の活用をジブンゴトに
～共創を通じた未来の公共空間再考～」 讃岐　亮　首都大学助教・博士（工学）

③　福生市の公共施設の歴史、現在の取組、今後のスケジュール
菊地　信吾　福生市企画財政部行政管理課長

④　令和元年 10 月から 12 月にかけて実施した地域懇談会の報告
小澤　はる奈　地域懇談会ファシリテーター

⑤　ディスカッション「福生市の公共施設の将来の姿」
ファシリテーター　小澤　はる奈（元福生市公民館運営審議会委員他）
登壇者　讃岐　亮　（首都大学東京助教・博士（工学））
田村　光男（元福生市社会教育委員他）
加藤　育男（福生市長）

⑥　質疑応答・その他・閉会

（６）広報

・広報ふっさ令和２年１月 15 日号に開催記事を掲載
・市ホームページ、コミュニティビジョンによる周知
・主要公共施設や駅前でのポスター掲示、チラシ配布
・ふっさ情報メールの発信
・会議でのチラシの机上配布等
福生市議会、教育委員会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会、民生児童委員協議会定例会、安全安心まちづくり市民ひろば、Fe 監査委員会
・メール、郵送等での案内通知
町会長協議会、図書館協議会、文化財保護審議会、スポーツ推進審議会、小中学校 PTA、コミュニティ・スクール委員、青少年育成地区委員長会

２　市長挨拶

皆様こんにちは。「福生のハコモノ未来トーク」、こんなに大勢の方にお集まりいただけるとは思っていませんでした。ありがとうございます。この事業は市制施行 50 周年記念事業としてやらせていただいております。

福生市が市になったのは、昭和 45 年でございます。それから 50 年経ったわけですけれども、それに先立ちまして、昭和 40 年、まだ町の時代ですが、その時、財政破綻を起こしまして、地財法（地方財政再建促進特別措置法）の適用を受けました。市民の皆様もつらい思いをしたことだと思います。そういう苦い経験がありまして、また、昭和 47 年には KPCP と言いまして、関東平野に所在していた米空軍基地を横田基地に統合しようという日米政府の計画が起こり、立川基地などが横田基地に統合されたわけですけれど、当時の初代石川常太郎市長はその時に、地域が負担を被るのではなく、地域のための交付金、補助金を整備し、様々な市民のための施設を建ててもらいたいということで、そのための運動を国に対して一所懸命行ったわけです。

そのおかげで、福生市は都内の他の自治体に比べ２０％以上多く公共施設があり、現在、市民の皆様が、そこで様々な事業を行っていただいております。ただそれらが、50 年近く経ち、多くの施設が老朽化を迎えております。学校の校舎も例外ではなく、一方で、首都直下型地震とか、様々な災害がいつ起こってもおかしくなく、準備をしていかないといけない状況でもございます。そのようなことから、未来の施設、ハコモノについて、市民の皆様といっしょに考えていかなくてはならない、そういうことが今日の事業の考えの発端です。

昨年秋に台風第 19 号がこの地方に襲来し、多摩川が増水しまして、福生市始まって以来の避難指示（緊急）も出させていただきました。その時にも学校等の公共施設の重要性を私ども、あらためて認識したわけで、そういう部分も含めて考えていきたい。それから、いろいろな老朽化した施設を、利便性の高いところに統合して、市民の居場所づくり、そして、多くの市民ニーズがそこにうまくマッチングしていかなければならないということで、今、福生駅東口の富士見通り線の整備を行っていますし、本日の資料には、福生駅西口に様々な施設を統合していこうという事業の青写真も載せております。その部分を含めて、今日は皆様のお考えをお伺いしたいと思っています。

そして本日は首都大学東京助教の讃岐亮先生から基調講演をいただき、様々な問題提起をしていただければと思っていますし、昨秋、市民と公共施設の懇談会を担っていただいた小澤さん、そして現在の公共施設の配置に携わられた田村さんにも御登壇いただきまして、公共施設のこれまでとこれからを語っていただきたいと思います。ぜひ福生市の未来を想像していただいて、今日これからの２時間を有意義なものにしていきたいと思いますので何卒、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

３　基調講演
まちの資産の活用をジブンゴトに　～共創を通じた未来の公共空間再考～

講師：讃岐　亮氏

首都大学東京助教・工学博士

公共施設の再配置や利活用についての計画支援、市民とのワークショップ等での合意形成を手掛けるなど全国各地の自治体で活躍。

近隣の多摩地区でも

- 多摩市　旧北貝取小学校跡地活用基本方針策定支援（平成 30 年度）
- 武蔵野市　公共施設のあり方ワークショップ（平成 30 年度）
- 小平市　公共施設マネジメント推進委員会委員（令和元年度）
- 立川市　地域施設再編ワークショップ（令和元年度）

など、多くの自治体でご活躍されている。

皆様、はじめまして。讃岐と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

実は、私は幼少期に立川市に住んでおりまして、横田基地のフェスティバルとか、近隣のお店とかに、何度も足を運ばせてもらっています。ご縁を感じていながら、こうしておしゃべりをさせていただく機会を得ましたので、親近感を持ってお話したいと思います。

今日、入口のところで子どもの姿を見かけましたが、すごくいいことだと思います。私の目の前にはたくさんの結構、御高齢・・御年輩・・（会場笑）人生の経験者の方がいらっしゃって、そういう点では緊張するのですけれど、一方で「まちの資産の活用」とか「未来の公共空間の再考」をタイトルに掲げたということは、未来に向けたまちの維持とか運営を考えていかなくてはならないわけで、今日は少ないかもしれないまでも、若い世代の人たちにもこういうことを受け継いでいかなければならないと思います。もしかしたら皆さん一人ひとりの宿題なのかもしれません。それが今日の私のメッセージなのですけど、そのような思いでお話を進めていきたいと思います。

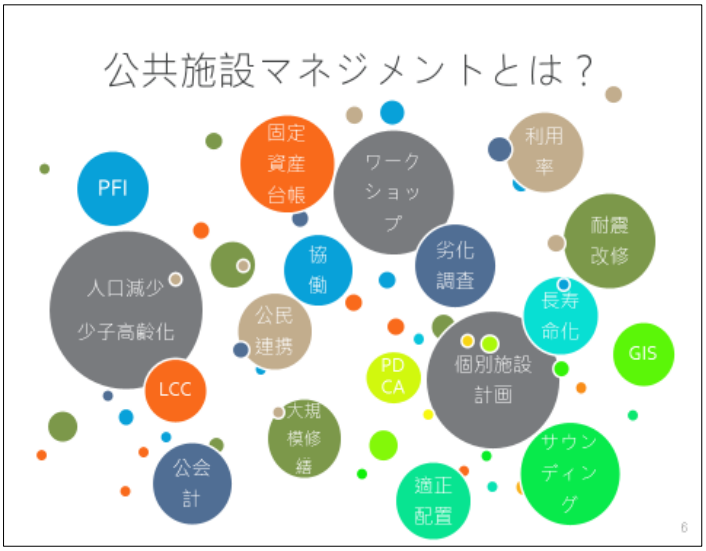
タイトルに掲げたことを考える時、いつも皆様に問うているのは、「自分のまちをどのくらい知っていますか」とか、「どのくらい好きですか」とか、「どんなまちなら住み続けたいですか」ということです。これらはすごく重要なことです。「まちとどういう関わりを持っていますか」ということも重要なことと思います。関わり方っていろいろありまして、積極的な関わり方もあるし、サービスを受けるという関わり方もあります。例えば図書館で本を借りるとか、市役所へ市民相談に行くとか、公民館でダンスを踊るとか、小学校に通うとか、その他もろもろたくさんあるわけです。納税するというのも一つの関わり方です。こういうことが見られる中で、先に言葉の整理をしたいのですが、「ジブンゴト」という言葉をきくのははじめてという方が多いと思います。「ジブンゴト」って正式な日本語にはないと思います。「ヒトゴト」っていうのはありますね。自分に関係ないこととか、他人に関することという意味です。「ジブンゴト」とは、これを自分のことにしていこうという意味合いを持つ日本語なのですが、要は「ヒトゴト」の反対語で、自分に関係のあることにしていこうとか、自分に関することと認識していこうという意味合いがタイトルに込められたメッセージだということです。

- 自分の街のこと、どのくらい知っていますか？
- 自分の街のこと、どのくらい好きですか？
- どんな街だったら住み続けたいですか？
- 街とどんな関わりを持っていますか？

ひとごと【人事・他人事】
自分に関係ない事・他人に関する事・たにんごと・「－とすましてはいられない」「まるで－のような顔をしている」（大辞林第三版より）

じぶんごと【自分事】
自分に関係ある事・自分に関する事・「－にする」

ここから内容に進んでいきますが、今日は３つのコンテンツを用意しました。時間も限られていますのでざくざくっと進めていきたいと思います。



■コンテンツ１

公共施設マネジメントとは？

最初に、市長があいさつの中で、こういう状況で、これから何をしていかなくてはならないのかということを、簡単にご説明いただいたのですけれども、公共施設マネジメントは、市役所向けの資料には本当にたくさんの用語がご

ざいまして、何をくみ取ったらいいのかわからないという状況がいろいろな自治体で起こっています。例えば機器の劣化調査をしなくてはならないとか、耐震改修をしなくてはいけないといった事務的、技術的なこともありますし、こうして市民講座を開く、市民の意見を聴くということも公共施設マネジメントで取り組むべき課題の一つに思われているところです。

でもですね、公共施設マネジメントとは、よくよく考えてみたら経営なのですね。公共施設に限らず施設のマネジメントは経営判断を求められることで、くしくも市長があいさつでおっしゃっていましたけれども、なんでこれをしなくてはならないのか、これは財政的な背景が元になっています。

福生のまちは一度、経営破綻をしたそうですが、そういうご経験を持つ自治体だからこそ、今の状況を、お金がなくなっているという認識をあらためてしていただいているということだと思います。

ともあれ、この地域を受け継いでいくためには、やはりお金の問題を解決しなければならないことですね。ただ、お金の問題と申し上げると、つまらなくなってしまいますし、暗い部分も思い浮かべてしまうかと思います。そうではなくて、もう一つ大事なのは、公共施設マネジメントはまちづくりであるという認識を持つことです。

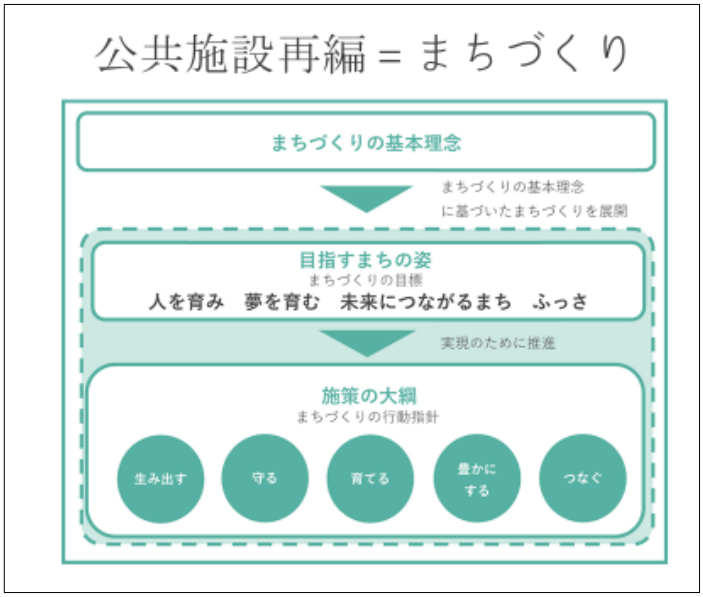
市民の皆様はこのことに気づいていらっしゃるのですよね。

たぶん、小澤さんがやっていらした市民とのワークショップの中でも、公共施設の再編の問題に関わる中で、市民の皆様は、いろいろな意見の中で、自らまちづくりに関係した意見をくださっていると思うんです。私が関わってきたいろいろな自治体の中でも、言わなくても市民の皆様からこういう意識がでてきています。

本日の資料は、自治体の職員向けの研修の時に作ったものをそのまま持ってきています。何が言いたいかといいますと、こういう意識を、市長以下市役所の職員と住民の皆さんが共有しないといけないということです。これすごく大事です。お金の問題だけではなくてまちの問題であるということです。

これ(画面の図)は、皆様みたことがありますでしょうか。総合計画の中で掲げられているものですが、福生市のまちづくりの基本理念は「人を育み　夢を育む　未来につながるまちふっさ」というふうに書いてあります。これに「まちづくりの行動指針」のキーワードが連なっていて、例えば、下の方に「生み出す」「守る」「育てる」「豊かにする」というもの以

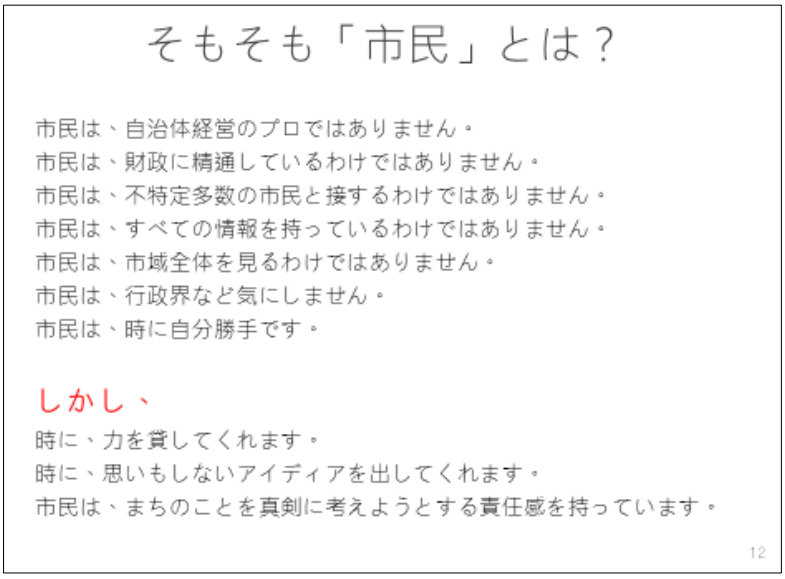
外に「つなぐ」という言葉があります。「つなぐ」という言葉は後程、説明しますが、すごく重要なキーワードになると思います。未来の世代につないでいくという意味合いもあるでしょう、これは時間的なつながりの話です。もう１つ大事なのは、この場で、空間を通じて皆さん一人ひとりのつながりであったり、市役所の職員と住民のみなさんとのつながりという意味合いもあるでしょう。そういうつながりを育んでいくという理念はすばらしいものと思いますし、それがまちづくりだと言える福生市は、ポテンシャルが高いという風に理解しております。



■コンテンツ２　まちづくりと市民協働

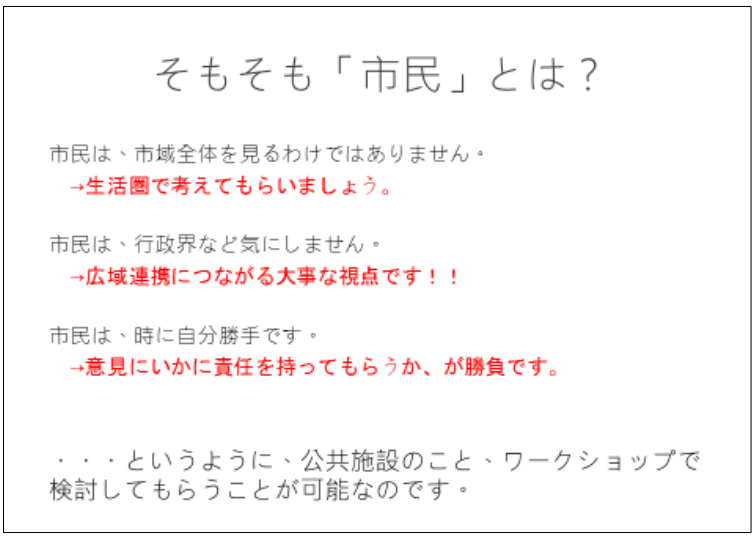
コンテンツ２ですが、そういうまちづくりを、市民の皆様とこれから考えていかなくてはならないと福生市は考えているわけです。多くの自治体が市民協働とか市民参加というキーワードを掲げて、市民の皆様といっしょにまちをつくっていきますという話をしているのですけれども、実際なかなか厳しいところがあります。

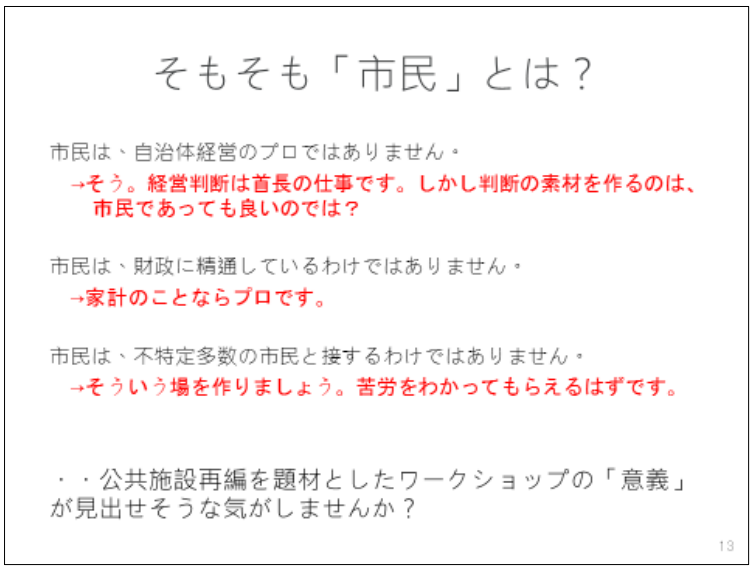
住民の皆様に、全部の情報が与えられているかというとそうではない面があるかもしれないし、市の職員にとっては、ある課題に対して、全部を取り組めるわけではないということもあるかもしれません。市民協働は大事ですが、やりすぎちゃうと結構難しい実情があるのです。そんな中でどうやっていったらいいかというお話を少しだけしたいと思います。



そもそも市民って何でしょうか。これもどちらかというと市役所目線、行政目線で理解を深めるための資料なのですが、ちょっと厳しいことを申し上げますが、私も一市民なので自分のことでもあるので

すけれども、市民は、自治体経営のプロではないのですね。公共施設マネジメントは経営だと最初にもうし上げましたけれど、それを皆様といっしょに考えていく、まちづくりを考えていくといった時に、プロじゃないというのは一つのネックになる部分かもしれません。それから財政に精通しているわけではないですよね。不特定多数の市民といつも接しているかというと市民の皆様お一人おひとりはそうではないと思います。すべての情報をもっているわけではないですし、市域全体を見て物事を考えられることもなかなか少ないと思います。





あと、行政界を気にしませんよね。たぶん。福生だろうが、立川だろうが、昭島だろうが、別に、お買い物に行くとき近いところに行くということもされているかもしれません。そして、これは自分自身のことですけれども、自分勝手なことを行政に対して言う、そんな特性もあります。ここが一番厳しいポイントかもしれません。

ただ、皆様との対話を通じて私が考えているのは、市民はちゃんと力を貸してくれるんですよね。かつ思いもしないアイデアを出してくださったりします。ここはすごく重要なのですけれど、まちのことを真剣に考えようとする責任感を持っているのが、市民一人ひとりの特性かなと思っています。

今最初に申し上げた、例えば、自治体経営のプロではないということは、裏を返せば、これは市長の宿題というか、常に取り組まれていることですけれども、経営判断は首長の仕事なのです。その判断の素材をつくるのが市民であってもいいのではないか、といった柔軟な、気軽な発想で、まちのことを考えていただけるといいと思います。市民は財政に精通してい

るわけではないのですけれども、日々家計のことを考えて暮らしておられるはずです。そういう点ではお金のプロでもあるわけです。市民は不特定多数の市民と接するわけではないのですけれども、例えば小澤さんがコーディネートしておられたようなワークショップの場で、素材をつくってあげる、そういったことが求められている時代になっているのかなという風に思います。

まちづくりや、公共施設の再編の問題を題材としたワークショップの意義は、こういうところに見いだせるのではないかと思います。

市民というのは市域全体をみるものではありませんので、生活圏の領域で考えてもらうというあり方が市民協働の中で求められると私は考えています。「市民は行政界など気にしません」と先程言いましたが、これを逆手にとって、行政界を気にしないということは、広域連携につながるアイデアととらえることもすごく重要な視点だと思います。これは市民の皆様の圧倒的なポテンシャルです。

市民には、ときに自分勝手な意見をおっしゃる方もいるかもしれませんが、そういう意見にいかに責任を持ってもらうのかが行政マンの仕事かもしれません。そこが勝負です。つまりこういう意義のあるワークショップってやはりできるということです。

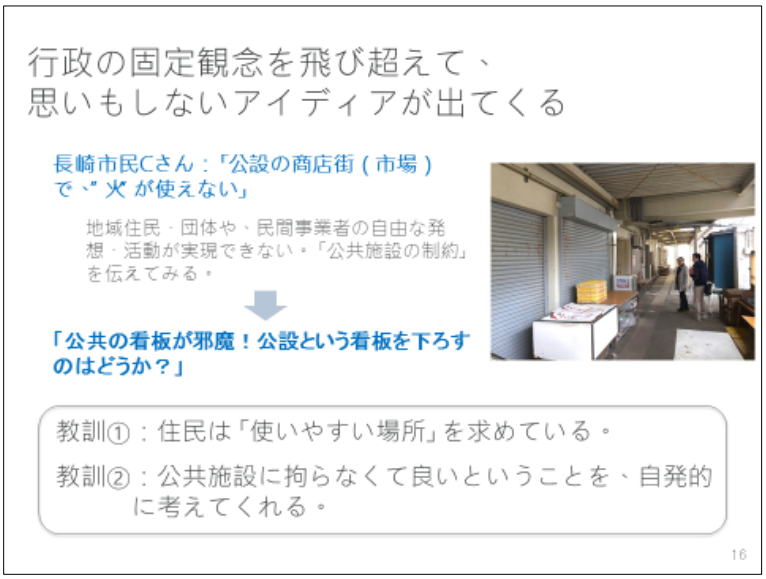
それは、私が申し上げるまでもなく、小澤さんがコーディネートされて、すでにやっておられるわけですが、また、これが今後続くのか、わからないですけれど、きっと続けられるのかなあというふうに期待するところです。

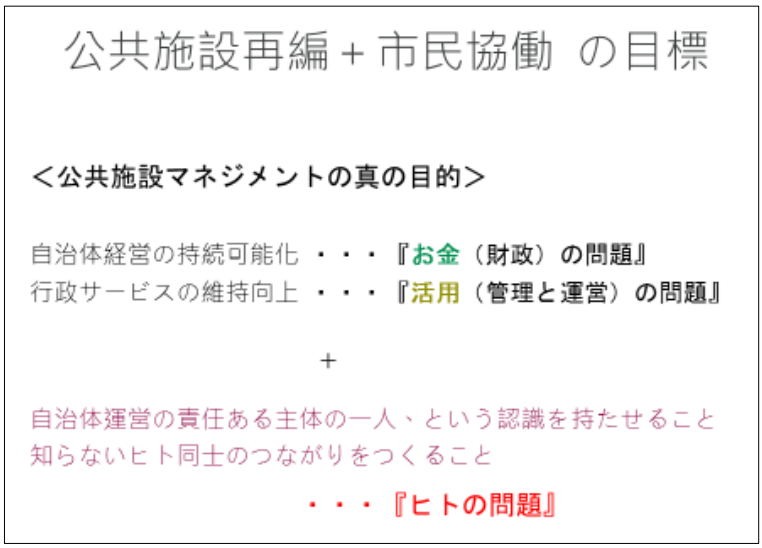
少し関連するワードを拾っていきますと、行政界を考えないというのは、すごくいいことです。

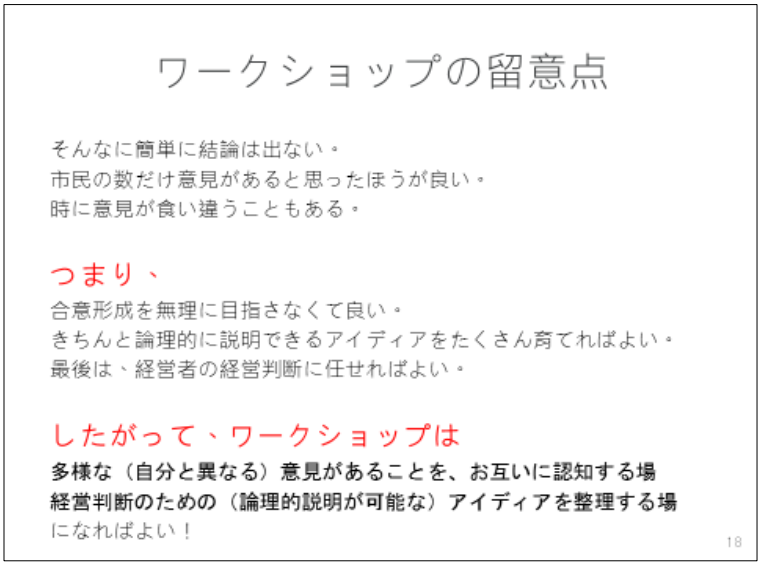
（画面の図）、実は武蔵野市のワークショップの時に参加者の市民にポスターを作ってもらって、ポスターセッションをしたのですが、皆様お気づきかわかりませんけれど、武蔵野の森という三鷹市にある施設の写真を、どーんと持ってきて、プレゼンをされたグループがありました。武蔵野市のワークショップですよ。こういうことが象徴するように、行政界のことを考えなくても日々の生活圏を考えているのだということが明らかになったわけですし、ここから、それが重要なのだということを行政側が学んだというふうに私は思います。

あるいは、長崎の、思いもしないアイデアを出してくれるという例です。長崎市は市が管

理している市場を持っています。そこでは、火を使ってはいけないという規制があり、火を使えないということは飲食店が経営できないということです。そして飲食店を経営したいという目標があった時に、市の看板を下ろしてもらった方がいいという行政マンではなかなか考えられないようなアイデアを、柔軟な発想に基づいて出してくれます。市民ってそういう特性があります。



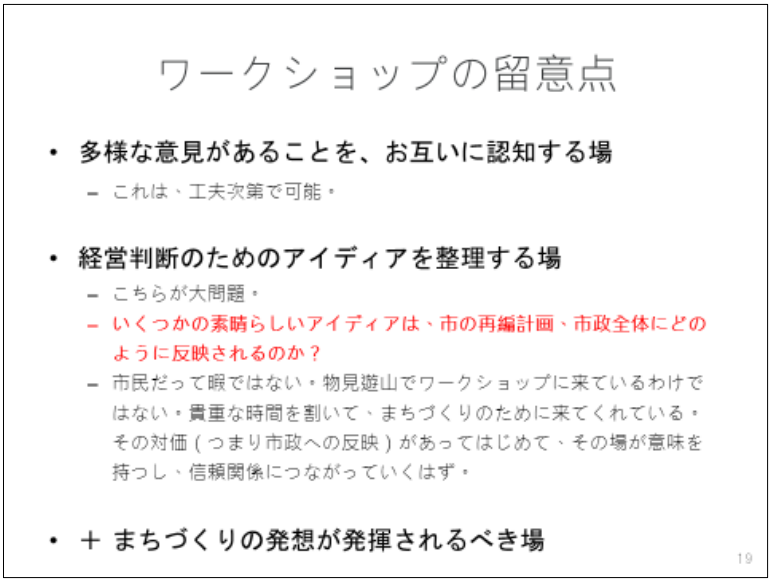




最初に公共施設マネジメントはまちづくりのことですよとか、経営ですよという話をしました。これは結局お金の問題であり、使い方の問題、活用の問題なのですけれど、こういうふうな例をみますと、自治体運営の責任のある一人ひとりの市民協働を考え、知らないヒト同士のつながりをつくる「ヒトの問題」でもあるということがわかるわけです。

ワークショップは、よく用いられる手法なのですが、そんなに簡単に結論は出るとは思っていません。一つの方向性は、うまくやればファシリテーターの能力により引き出されると思うのですが、例えば 2 時間の会議を 4 回やって、一つの結論を出せるかというとなかなかそうではないですよね。それと同じだと思

います。つまり、無理に合意形成を目指さなくてよいのではというふうに思います。みなさん一人ひとりが、いろいろな意見を持っていることを一人ひとりに共有する時間にしてあげると、ワークショップはうまくいきますし、行政というシステムの中で、ちゃんとトップが判断できるという前提に基づいているわけですけれど、判断の素材をつくっていくのだなという、もうすこし気を楽にして臨まれるといいのではないかなと思います。



これは今言ったことですが、互いに多様な意見があることを認知する場になったらいいのではないか、あるいは経営判断のためのアイデアを整理する場ですよということです。プラス、最初に申し上げたとおりに、公共施設マネジメントはまちづくりの話なので、まちづくりの発想が発揮される場だと素晴らしいと思います。

多摩市でやったワークショップの例からまちづくりの発想がいかに大事かという話をします。多摩市はご存じの通り多摩ニュータウンという、いわゆるベッドタウンの町なのですが、4、5年くらい前、ここで公共施設マネジメント、公共施設の再編をテーマにした市民ワークショップを行いました。多摩市も福生市と同様に将来、財政的に厳しいということが見えていたので、例えば何とか計画とか、何とか行動プログラムとかいうものをつくって、いつまでにどういう施設を複合化しますよとか、廃止しますよとか、一つずつ丁寧に市民に公開していきました。

ただ、そのやり方というのは、人によっては、少し乱暴と捉えられることもあって、市民の皆様と、対等に接する場をつくろうということでワークショップが開催されました。その中のことをお話しますと、多摩市は社会教育施設の中に図書館が入っており、図書館が7館あるのですが、それを市内の3館に集約化するという目標をかかげました。そして、象徴的だったのは、図書館を考えるという視点の会議をやった時に、市民の皆様から、例えば、こんな意見が出ました。「図書館は身近にあることで重宝している、」「地域の核になっている」という意見、あるいは「図書館は地域の中心的機能がある」という意見。なんで図書館を中心の話題に持ってきたかというと、多摩ニュータウンのつくり方はそもそも、地域の中心に図書館がある、コミュニティセンターがある、そういうまちづくりの方針によって多摩ニュータウンの街区ができているからです。

市の職員が、そのことを考えなかったのかというとそうではないと思いますが、いろいろな事情があって、７館を３館にという目標になったのだと思います。ただ、住民の皆様からするとそれ以上に、お金がかかる以上に、それは、地域のコアだという思いが強く、そういう思いが最終的には都市計画そのものでしょという、まっとうな議論に整理され、それが最終的に行動プログラムの変更の時に反映され、７館を３館に集約するというのが延期されたといいますか、「検討」というふうに変わりました。

これはある意味、公共施設の整備という点では、３歩進んだけれど２歩下がった、つまり１歩しか進んでいないという見方もできるのですが、ただ、そういうふうに市民の皆様とやりとりする中で、きちんと公共施設の再編の問題を取り込むっていうことが、見て取れますので、なんらかの形で着実に一歩進んでいく、ということができているのは多摩市の強みだと思います。また、そういう方法を福生市でもできると、より経営的理念に基づいた公共施設マネジメントに取り組むことができるかなと思います。

■コンテンツ３　まちの資産を活用しよう

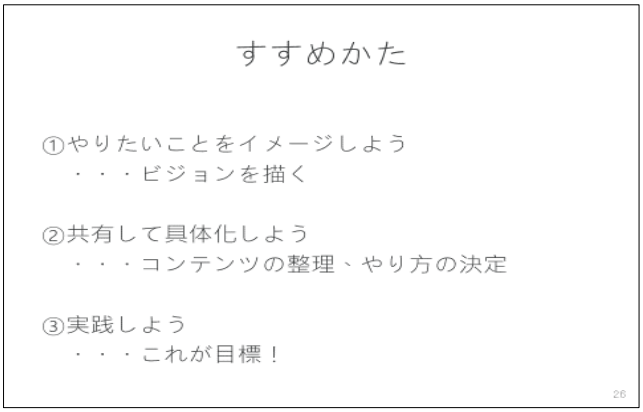
コンテンツ３「まちの資産を活用しよう」です。さいごにみなさまに「共創」を通じた未来のまちづくりの話をさしあげなくてはいけないので、このコンテンツを用意いたしました。

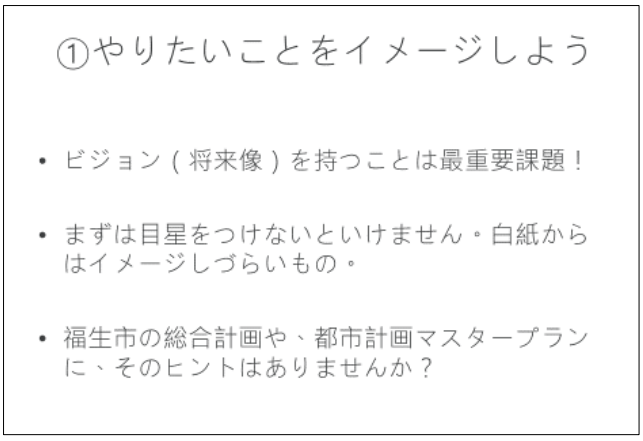
「まちの資産を活用する」ってどういうことなのか、最初に、まちに対してどういう関わりを持っていますかという問いを出しましたけれども、その一つのやり方として、まちの資産の活用のアイデアを紹介したいというわけです。

「すすめかた」ですが、すごく大事なこととして、例えば学校の集約化をしますとか、コミュニティセンターの集約化をしますとか一般的な問題と思った時に、福生市としてどういうまちづくりのビジョンがありますかということを最初にイメージしなくてはならないのです。ビジョンがすごく大事なのです。

最初に手法を描いてしまうと、その手法の中でしか進んでいきません。最初にビジョンを描くことがすごく重要です。さらにそれらを共有化し、具体化していく、ここは市民の皆様と市民協働とか市民参加とかいうところで、実現できるということですね。

ここではコンテンツの整理ということがすごく重要です。地域の方にどんな資源があるのかとか、地域の皆様の力にどういうものがあるかとか、地域のお一人おひとり、住んでいる方のスキルとはどういうものなのかとか、どういう関わりを持っているのかいうことを共有することがすごく重要です。



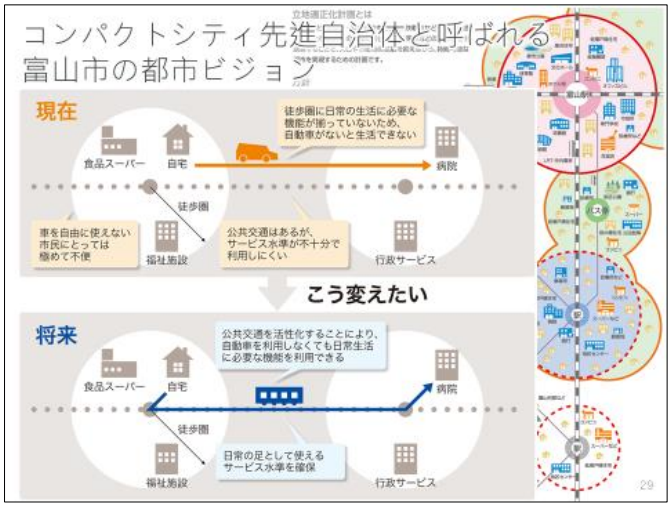


そして最後に、ここが大事なのですが、「実践」です。やりたいことをイメージして、例えば、総合計画をつくります、共有します、市民協働もやりました、でも実践が伴わないと前に進めません。「実践」と（ポイントの）３つ目にあっさり書いてありますけれど、ここが目標で、これができることが次につながる最大のポイントです。

最初にやりたいことをイメージする、先程申し上げたとおり、ビジョンを持つことは本当に最重要課題です。まずは、目星をつけないとわからないですね、白紙の状態から中をイメージするのは難しいと思います。どんなことをやりたいのかということをイメージするということです。

例えば、これはコンパクトシティというキーワードで先進自治体と呼ばれている富山市の都市ビジョンですが、すごいなと思ったのは、こういうまちの構造を、こういうまちの構造に変えたいというのを絵としてわかりやすくまとめているところです。

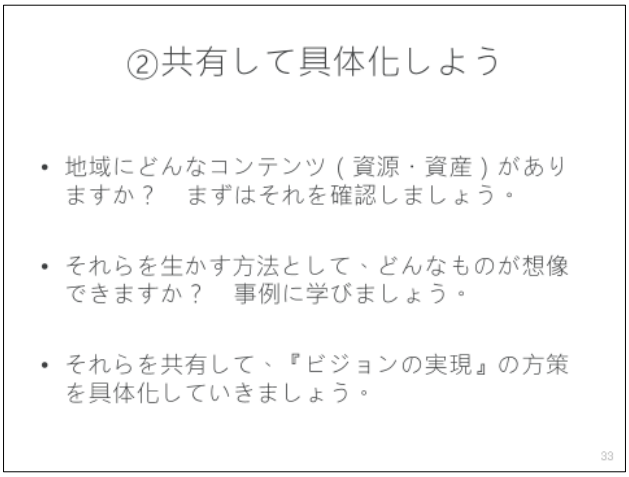
都市の軸があって、それを公共交通機関でつなぎます、なるべく公共交通機関に乗っていただくために何ができるのかを考える、そういうのがあって施策をすすめているところ、さらにすごいのが、例えば福祉の問題をヒアリングしても、学校の問題をヒアリングしても、どの職員もコンパクトシティだから、という説明をしてくださるのです。ビジョンが市役所の職員の中で共有できている、これも重要ですし、市民の皆様も共有できてい



る、そういう環境を作っていくことがすごく重要だと思います。

これ（画面）は明石市のまちづくりビジョンですね、このパンフレットは総合計画という明石市で一番大きな、大上段にある計画の表紙ですけれど、皆様これを見て不思議に思ったことがありませんか。この時代において不思議に思うこと、なんと、子どもと、お父さんお母さんしか写真にないのですよ、

最初に、ここには人生の先輩しかいらっしゃらないと申し上げましたけれども、明石市は子どものためのまちづくりをするということを明確にかかげています。もちろん、御高齢の方々になんのフォローもしないかというと、そうではなくて、そこも大切だからやるにはやるのですが、一番始めに掲げるイメージは、子どもたち向けのまちづくり、こういうことが言えるというのもすごく重要だと思います。



次に「共有して具体化しよう」、どんなコンテンツが地域にあるのか、それを確認してもらうこと、それらを生かす方法として、事例に学ぶということがすごく重要だと思っています。事例の紹介があと５分程しかないのでささっと進めます。

これは大阪市の「てんしば」というところですけれども、何がすごいかというと、地域に天王寺公園がありました、天王寺動物園がありました、駅も近い土地です、こういうところで何が求められるか、地域の方々が、もっと豊かに、テーマパーク的にあそべる空間が欲しい、というビジョンを掲げたのですね。

そこで、近鉄不動産という民間の事業者さんが、こういうことができますよと提案してくれたので、実現したのがこのてんしばというところですが、公園というのは、自転車に乗ってはいけないですとか、ペットの散歩が禁止の公園がありますし、バーベキューしてはいけません、ボール遊びしてはいけないという公園もあります。

そういうのが、民間事業者の運営にしてしまうと、全部ひっくり返って、フットサル場ができます、バーベキュー場ができます、ドッグランができます、みたいに、発想を転換してあげる、運営を転換してあげるだけで新しい空間が生まれますよという例として、すごくおもしろい事例です。地域の資産はこんなものがありますよという把握の上で成り立っているということはすごくおもしろい事例というふうに思います。

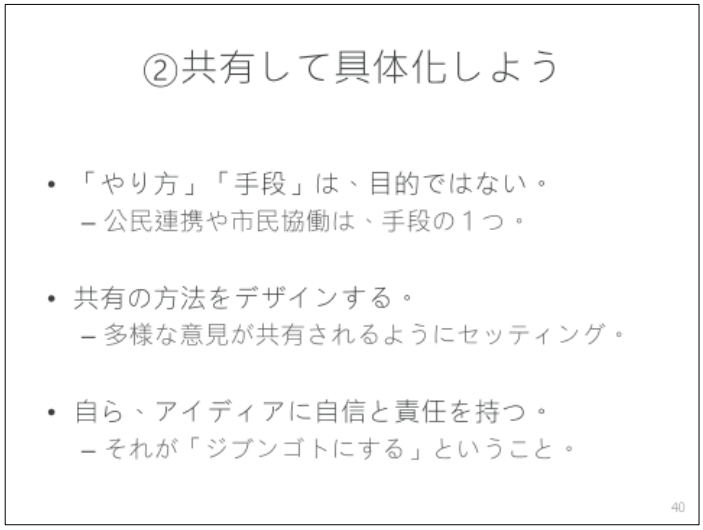
廃校の利活用の事例ですけれども、廃校舎全体を市民の NPO の方が活用して貸会議室とか、いわゆるコミュニティセンターに求められている機能を市民の運営で行えているという事例が豊島区にございます。

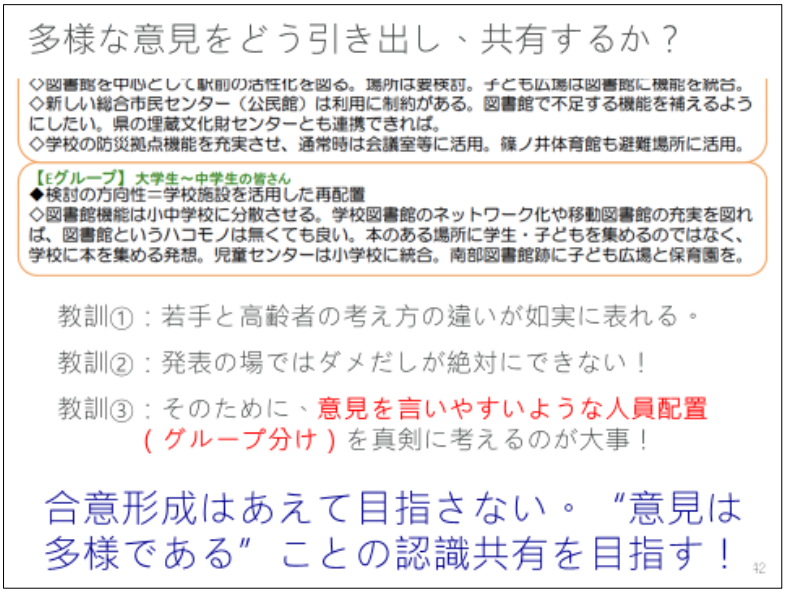
台湾に行くと、普通の空き地に廃タイヤが重ねられているだけの公園があったりします。空き地や空き家とかを使って、公費は全然かけず、市民の皆様の目と、ちょっとした助力によって実現できている公共空間。

これは皆様も御存知かもしれませんが立川のまんがパークです。これも旧庁舎を素敵な、居間でくつろいでまんがを読む空間に変えた事例です。まんがというとアレルギーを起こす方がいらっしゃるかもしれませんが、そういうものを通じて若い人たちも、人生の経験者も交流できるような空間が実現できています。これもなかなか、従来の発想だとできないことかもしれませんが、民間事業者にとっては、やわらかい頭の転換でこんな事例ができるわけです。実際に押し入れ部屋みたいな空間体験ができるのです。すごく夢のあるお話かなと思います。

やり方とか手段とかは先程から申し上げているように目的ではありません。今紹介しましたが、公民連携とか市民協働というのは手段の一つです。やはりビジョンが大事だということです。

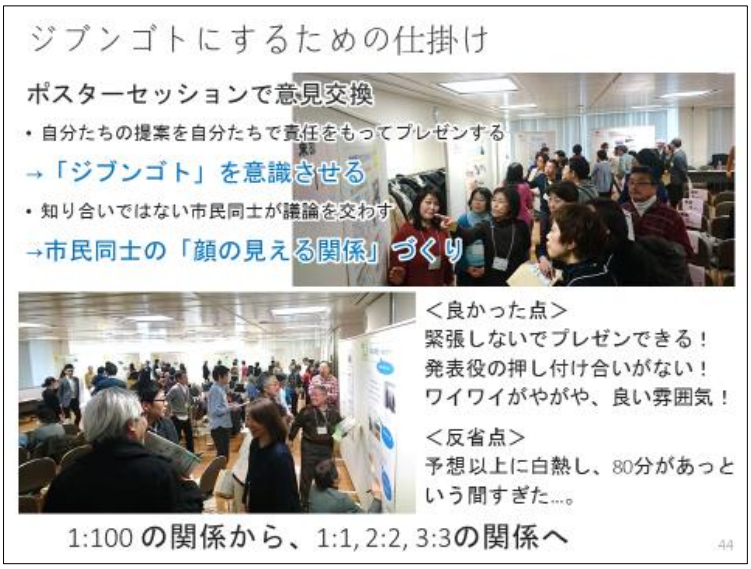
「共有の方法をデザインする」というのは、ワークショップとか市民協働を行う上ですごく大事なことというふうに思います。最後に申し上げている「自ら、アイデアに自信と責任を持つ。」はこれまで申し上げてきたことの繰り返しで、「ジブンゴトにする」ことで、こちらは長野市の事例ですが、多様な意見の存在を確認するというのはすごく重要なことです。人生の経験者とかお父さんお母さん世代とかを集めてまちづくりのワークショップをした時に、はたと気づいたんですけれど、人生の経験者、人生の大先輩グループ、お父さんお母さんの世代、これからのリーダーを担う人たちのグループ、というふうに年代別に分けたのですね。その時、この地域で問題になっていたのは図書館の問題だったので、図書館を中心としたまちづくりが必要ですよというような案が出されました。その方向性も一つかなと思いました。ただ、最後に学生のグループがいたのです。学生達は、小学生、中学生とか高校生とかも入っていました。自分達はあまり図書館に行かなくて、でも学校の図書館があるから、学校に人が来てくれればいいのではないかという裏返しの発想を披露してくれたのです。



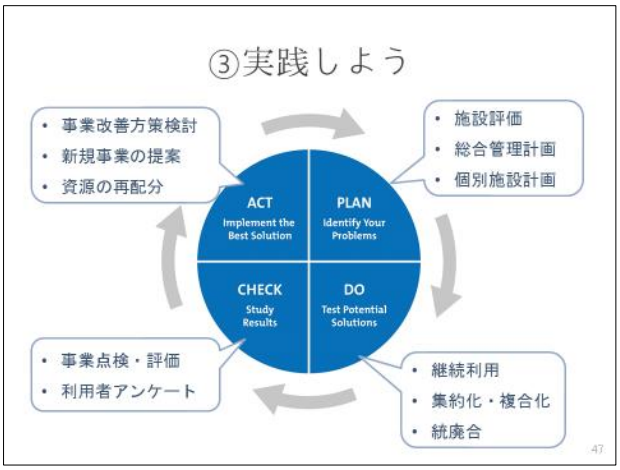


小学生とか中学生とか高校生といった年代の若い人たちが、人生の大先輩の皆様に囲まれながらも、一つのグループとして、責任と自信をもって発表することをやってしまえば、意見として記録に残りますし、みなさんにそういう意見があるのだということを共有できるのですね。これが共有のデザインです。

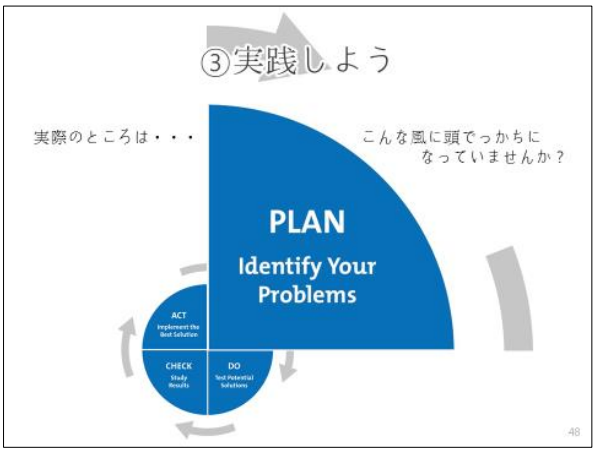
ファシリテーターはそういうところに導くのが、重要な職能なのかなというふうに思います。つまり、これは先程来申し上げているところですけれども、合意形成はあえて目指さなくていいと思います。いろいろな意見があるということを、責任と自覚をもって皆様で共有することを自覚することが、市民協働の一番重要なポイントではないかなと思います。



ポスターセッションという手法も、結構皆様、楽しんでくださいますし、自分の意見として、ちゃんと一対一で話し合える手法に基づいていて、自信をもって、自覚をもって、責任をもってものを言うのも一つのやり方かなというふうに思いますし、これもジブンゴトにするための仕掛けというふうに申し上げることができるかもしれません。



さいごに実践しようです。PDCA サイクルってよく言われるのですが、行政によっては、計画ばかり作っている実情があります。そういうふうになっちゃっているのです、どうしても。申し上げたとおり実践するのが一番大事なところで、とにかく自治体の職員も市民の皆様も「やってみよう」という精神を出して、双方通じた形で醸成していくのが重要なのかなと思います。ジブンゴトにするとか、まちの資産を有効活用するといったことも大事ですけれども、そこにトライして、多少間違ってもいいかなと思うくらいの気持ちを持っていた方が、ものごと進むのではないかと思います。

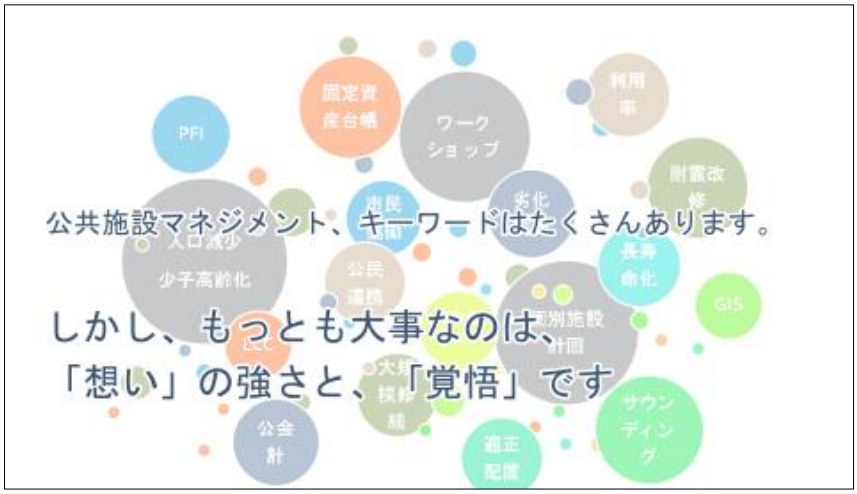


時間を過ぎてしまいました。最後に最初に申し上げたところを繰り返しますと、「まちとどんな関わりを持っていますか」と最初にお話ししましたが、例えば自ら発信するとか、成功事例を視察しにいくとか、公共施設のことをもっと知ろうとか、そういう積極的な関わり方も、もしかしたら、これからの時代、もっと皆様に求められるかもしれません。これは理念的なことでなくて、全部ワークショップで出てきた意見です。

たぶん福生市の住民の皆様もそういうことをお考えになっている方もたくさんいると思いますし、ちょっとだけ発想を転換してあげると必ず出てくると思います。福生市は、職員だけではなくて市民一人ひとりとの関わりを通じて、そういうことを積極的に引き出せるような環境に、そういうまちにしていけると、これからの未来に、本当に資産を有効に活用、ないしは引き継いでいける、そういう時代になっていくのかなと思います。

最後に、こういうことをやる上で一番大事なのはやはり「想い」の強さと「覚悟」で、そこをお一人おひとりで、皆様と共有しましょうというのが私からのリクエストです。

以上簡単な説明ですが終わりたいと思います。ありがとうございました。



４　福生市の公共施設の歴史、現在の取組、今後のスケジュール

こんにちは。企画財政部行政管理課長の菊地と申します。

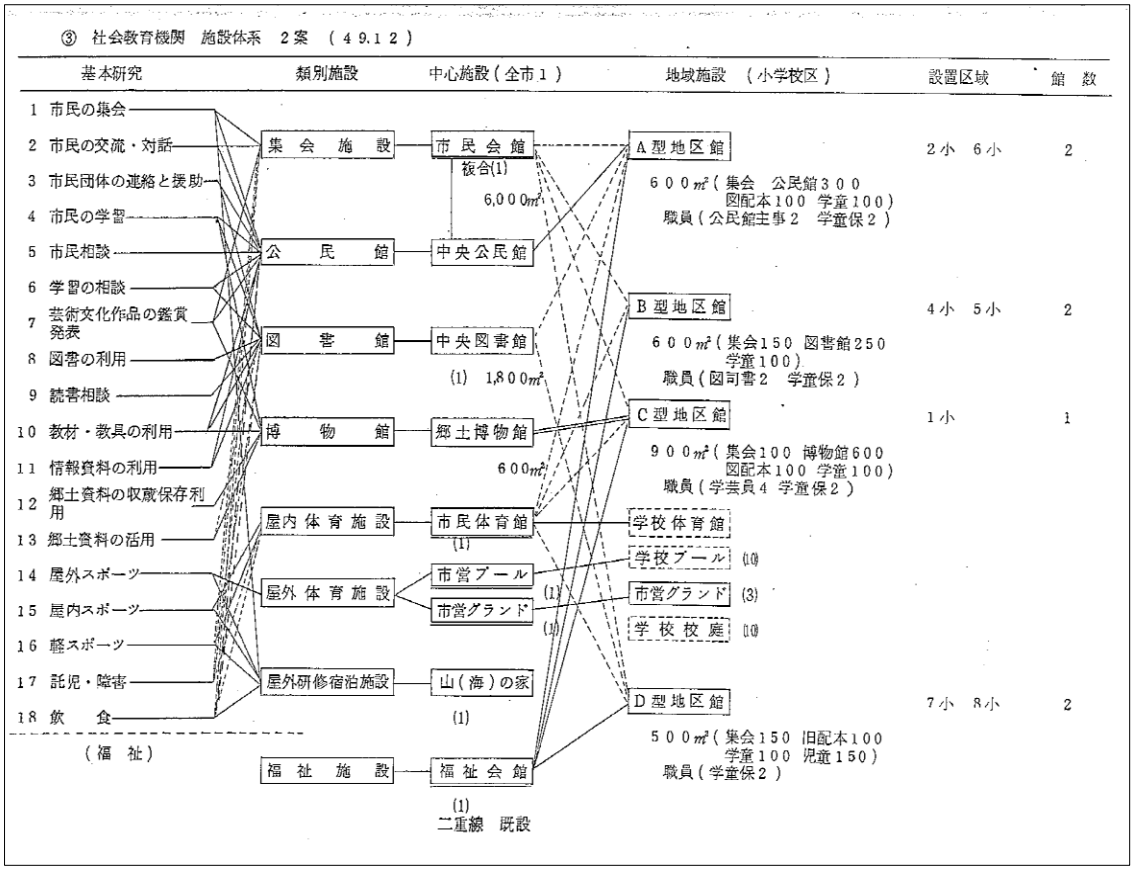
まず、簡単に福生市の公共施設の成り立ちをお話させていただきますと、福生でいわゆる都市基盤、インフラが急速に整備されたのは昭和 30 年代後半と聞いております。この頃、基本的な道路等が整備され、昭和 35 年には市民会館の前身ので、西多摩郡の会館という位置づけだった西多摩自治会館が建てられたり、青年団の活動場所の生活改善センターが役場の隣に建てられたり、前回のオリンピックの年には町の庁舎が建てられ、また、学校が木造校舎だったのをコンクリートに替えていくのもこの頃からはじまりました。

急速に整備を進めたのですが、ここで先程市長が触れておりました、お金をかけすぎたことから、町が財政再建団体となってしまい、例えば、職員を減らすとか、新しい事業がうてなくなるとか、国や都が市に介入してくる、昭和 41 年、42 年はそういう時代だったそうです。その後、4 年間かけて財政再建する予定だったところを、がんばって 2 年間で再建いたしまして、昭和 42 年からは、次のステージとして、生活の質を高める施設が建てられてくるといった歴史があります。

例えば昭和 43 年には、町営プールが開場します。昭和 45 年には福祉会館、今のさくら会館、学校以外のコンクリートの施設は珍しかったそうです、そして昭和 48 年には、中央体育館、市民体育館と当時いいましたがこれが整備されています。当時、人口 4 万未満では、体育館を持つ町というのは珍しかったそうです。またこの頃は、国からの補助制度があまり整備されておりませんでした。町の人たちの要望で整備されてきたのです。私は、基地があるから公共施設がたくさんあるのかなと思っていたのですが、その前に自分たちがつくりたいものを造ってきたという歴史があるのですね。

こうした施設で活動されていたのが青年たちのサークルです。成人式の実行委員会みたいな形なのでしょうか、打ち合わせなどの中で青年たちのサークルがこの頃増えたと聞いています。このサークルの方たちから青年の活動場所が足らないとか、狭いとか、公民館を造ってほしいとか、市民会館をつくってほしいとか、そんな要望が町に寄せられてきたと聞いております。

また、昭和 40 年代後半は、文部省の生涯学習、当時は生涯教育という言葉を使っていましたが、これを重視する政策も出てきます。そういった背景があって、現在の福生市の公共施設、社会教育施設の配置の基礎となる計画が出てきます。



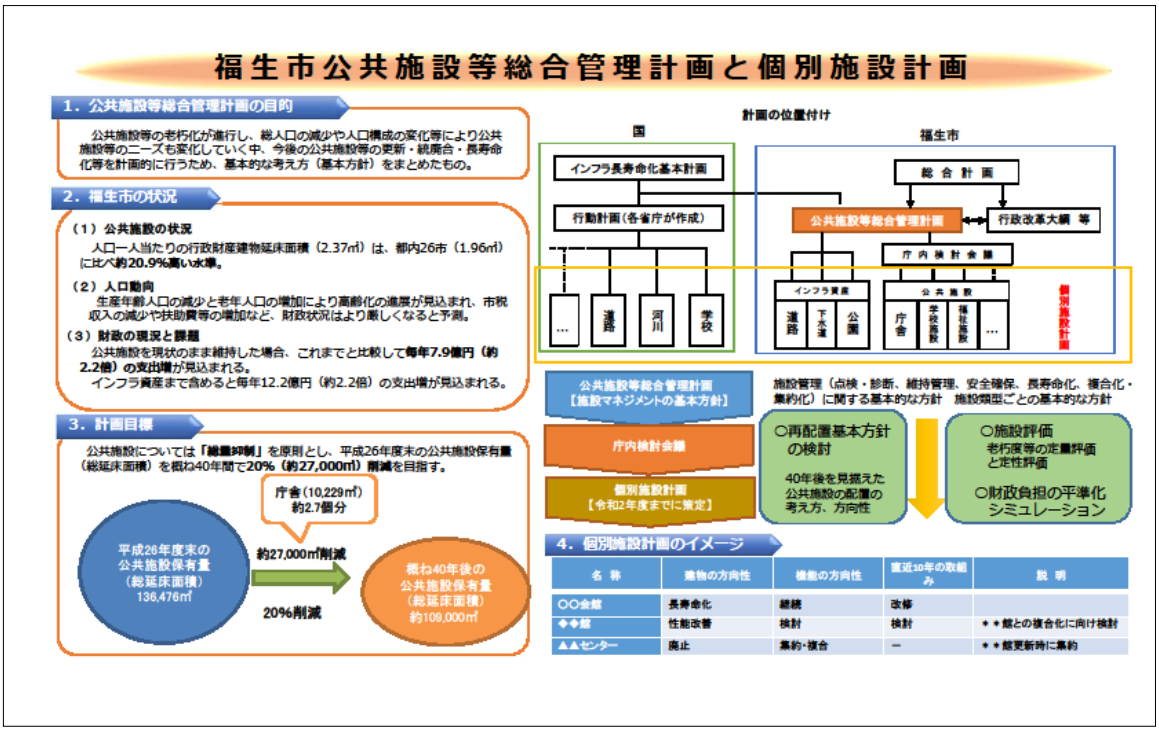
資料の上段にコピーを載せていますが、こちらは社会教育委員会が教育委員会に答申した「福生市社会教育基本構想－中間報告－」の一部です。市民会館・中央公民館等を「中心施設」として、各小学校区に、公民館機能を持ったＡ型、図書館機能を持ったＢ型などの「地域施設」を設置していくという構想で、これが昭和 50 年代の市の計画に引き継がれ、整備が進められました。

もう一つ、公共施設の充実の背景に、基地の補助金があります。市長が先程触れておりました、ＫＰＣＰという関東平野に所在する米空軍基地を削減し、それらを横田基地に統合するという計画ができ、まともに影響を受けるのが福生の町だということで、住民の生活を守るための施設をつくる補助制度、法律等を整備していくべきだと、市をあげて運動を行い、そして昭和 49 年に法律や補助制度が改正され、国の、いわゆる「防衛補助」を活用して、昭和 50 年代、皆様のおなじみの施設、わかぎり会館、わかたけ会館、市民会館、松林会館、中央図書館等の整備がされました。

このように、昭和 40 年代後半から多くの公共施設が整備されてきたのですが、これらが建築後 40 年近く経ち、また、全国でも、高度成長期にインフラや公共施設が増えていましたので、安全の問題、維持管理、更新に大変な経費がかかるということは福生だけではなく全国的な課題となりました。

これにインパクトを与えたのが、平成 24 年に、笹子トンネルで天井板が落下して９人の方が亡くなるという事故で、このようなこともあり、国から、全国の自治体にきちんと対

応するように要請があり、市では平成２９年に「福生市公共施設等総合管理計画」をまとめたところです。



この計画では、福生市は他市に比べ施設が多いこと、少子高齢化が進んでいる、施設の維持経費の増加が見込まれることから、概ね４０年間かけて公共施設を２０％削減することを目指すことを目標といたしました。

これまで市民の方からは、他市と比べて 20%公共施設が多いから減らすという目標値について疑問をいただくことがありますが、維持管理経費が見込まれること、あるいは、働く世代の人口が全国的に減り、税収も厳しくなることが見込まれることから、施設の総量を減らすことは必要であると考えております。

さて、市では次のステップとして、一つ一つの施設をどうするのかを定める、個別施設計画という計画を令和２年度末までに策定します。

個別施設計画は、一つ一つの施設ごとに、建物の寿命を延ばす長寿命化改修工事をしていくとか、あるいは複合化していく、集約していくなどの方向性をまとめる、そんな計画になります。

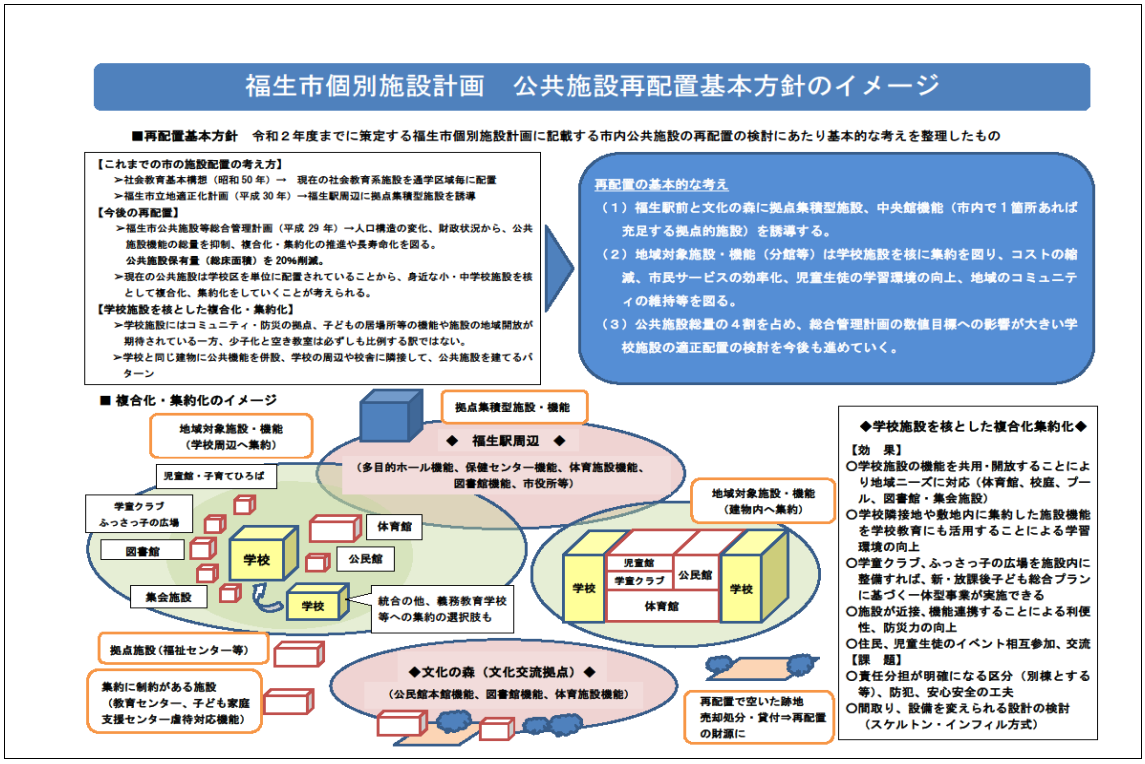
これは４０年間先までの方向性を定める計画で、建物の寿命が６０年とか７０年とか言われていますので、このような長い期間の計画となります。

「福生市個別施設計画　公共施設再配置基本方針」は、個別の施設の計画を立てるにあたりまして、単に、古くなった施設を建て直していくとか、あるいは廃止することを場当たり的に繰り返すのではなく、将来の公共施設の配置のデザインが必要ではないかと考え立て

た方針です。

方針の基本的な考えをお話しますと１点目は、牛浜駅付近の文化の森や福生駅前といった駅の近くには拠点的な施設、市内に１か所あれば足りる施設、公民館本館機能や多目的ホール等を造っていくという考えです。牛浜にはすでに文化の森がありますし、福生駅にはこれから再開発が進められようとしています。

２ 点目は、例えば公民館分館とか図書館分館などの身近な公共施設は学校施設を核に複合、集約等を図ることです。



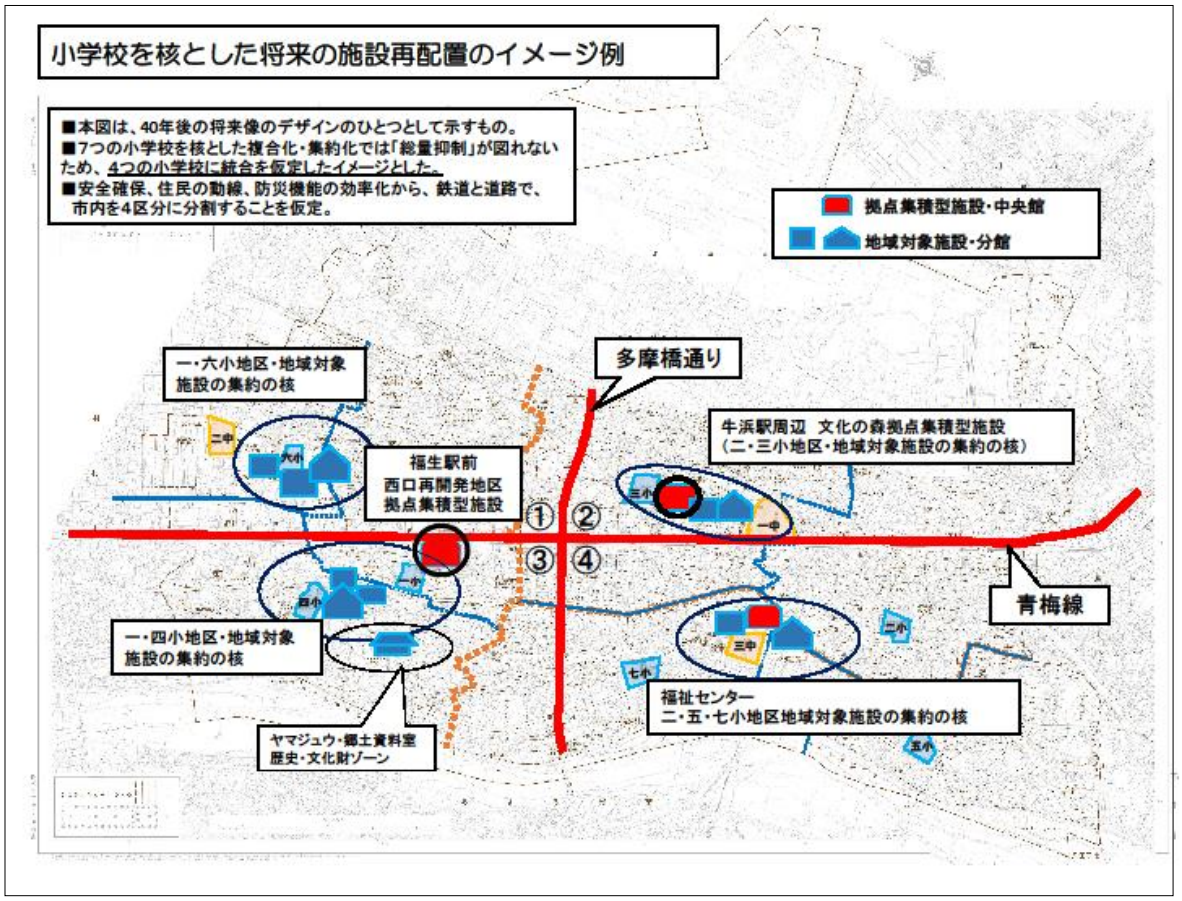
図はそのイメージで、学校周辺に公共施設を集めるとか、校舎の中に公共施設を入れることが考えられます。

異なる施設機能を集めることを「複合化」、同じ機能を集めることを「集約化」といいますが、なぜ、これらを行うのかを申しますと、施設を集めることで、別々の施設機能が同じ部屋をシェアする、使いあうということで、施設の総量を減らす効果があると考えられるからです。

なぜ学校を核に施設をまとめていくのかですが、効果として、学校の中や隣に図書館があれば、子どもたちの学習環境の向上が図られたり、地域の方と交流が図れたり、また、学校はすでにコミュニティ・スクールの取組のように、コミュニティの拠点としても期待されておりますし、防災の拠点でもございます。

実際には、学校の建て替えの時期とか、土地の確保等の課題がございますので、４０年間かけて実現させていく「イメージ」でございます。

基本的な考えの３点目は、学校施設の配置は今後も、時間をかけて進めていくということです。市内には小中学校あわせて１０校ございますが、全ての学校を複合施設にしてしまいますと、「総量抑制」が図れなくなってしまいます。一方で、どの学校を拠点につくっていくのかは、学校の統合等の話にもつながりますので、時間をかけて市民の皆様と情報共有を



しながら進める必要があると考えております。

４ページは、公共施設の将来の再配置を行った場合のイメージです。こちらですが、将来、小学校は人口推計からいいますと、４つくらいで充足していくのかなということで、小学校が４つになった場合で、４つの拠点に公共施設を集めていくイメージを描いたものでございます。

こちらはあくまでも、現在のイメージでございまして、例えば田園地区については福祉センターのあたりに公共施設が集まっておりますので、こちらに集めやすいと考えておりましたが、昨年の台風の経験を踏まえますと、防災上のことなど、まだ検討が必要かなと考えております。

最後に、福生市の未来の公共施設を紹介します、現在福生駅西口では進められている、再開発の地区に整備しようとする公共施設の計画です。

再開発は平成 29 年に福生駅周辺の地権者を中心に設立された準備組合によって進められており、行政も支援しているところです。組合からは、駅前に、賑わいが生まれ、魅力を発信できる公共施設を整備してほしいという要望が市に出されまして、市の都市計画でも、駅に商業や文化の交流拠点を集積させる方向性がございましたので、公共施設を整備することになり、内容を検討したのがこちらの計画になります。

右下ですが、施設の機能の方向性を４つに整理しております。スポーツ・アクティビティ機能や文化発信・交流機能などでございます。

施設整備に向けての考え方としては、バリアフリー、省エネ対策、防災対応などの考え方が示されております。面積は、主要な機能のみで 9,800 ㎡と大規模な施設となります。

スケジュールでございますが、東京都の都市計画決定とかいろいろな手続がございますので、早くて令和８年とか９年頃、施設が稼動するイメージです。

最後に、将来の市の公共施設の配置の現時点のイメージをまとめますと、身近な施設と複合化した学校が地区ごとにあり、牛浜駅周辺と福生駅周辺に拠点的な施設が整備されている、そして市全体で総量抑制が図られているというものになります。

本日は概要のみ説明させていただきましたが、市ホームページに再配置基本方針や、西口の施設の基本計画を掲載しておりますので、よろしければご参照ください。

公共施設の再配置は新しいまちづくり、施設機能のアップのチャンスでもあります。皆様のご理解をいただきまして、進めていきたいと考えています。説明は以上です。

福生駅西口地区公共施設整備基本計画（概要版）

JR福生駅周辺は、市の中心的商業地域として発展してきました。しかし近年の消費者ニーズの変化や大規模商業施設の郊外立地やインターネットでの消費行動の変化から、中心市街地である福生駅周辺はかつてのにぎわいが薄れてきました。さらに、そのことから生じる負のスパイラルともいうべき駅前の利便性の低下、住民の減少、そのことから生じる駅前の魅力低下による更なる商業環境の悪化が、市全体に影響を及ぼしている状況です。

そのような状況の中、平成２９年１１月に、福生駅周辺の地権者を中心に福生駅西口地区市街地再開発準備組合が設立され、行政としても新たなまちづくりに地域の皆様とともに取り組むこととし、多世代の市民の交流によるコミュニティを育み、負のスパイラルを断ち切るための核となる場を整備することとしました。

この基本計画は、準備組合が目指す「福生駅西口地区市街地再開発事業」において、公共機能を軸とした交流拠点の整備要望に対し、導入可能性を検討した庁内検討会の結果を基に、公共施設の役割や基本的な整備方針を明確にし、主な機能や施設内容、規模などの検討を行ったものです。

これは、市が準備組合に提示し、準備組合が策定する新たな都市計画案（事業計画）への反映を企図するもので、現時点での施設整備の方向性を示すものです。

今後、基本設計や実施設計を行う中で、より優れた公共施設とするための修正を図っていきます。

福生駅西口地区拠点整備の考え方

- 土地の有効利用
- 防災性の向上
- 良好な都市環境の形成
- まちの賑わいを新たに生み出す

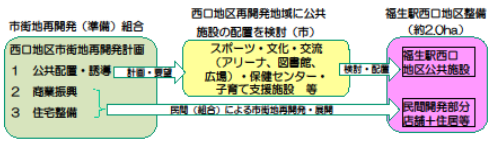
＋

- 公共機能を駅直近に集約、配置
- 複合的な次世代向け施設整備
- 新たな市民活動の拠点創造

⇒

福生駅西口地区公共施設整備事業
市民の交流の場となる
健康・スポーツ・文化・子育ての拠点を整備する

再開発全体における公共施設整備の位置付け（イメージ）



上位計画との関連性について

- 福生市総合計画
  良好な市街地の形成、環境の整備
- 福生市都市計画マスタープラン
  駅を中心とするコンパクトなまちづくりを進める
- 福生市立地適正化計画
  福生駅周辺に都市機能を集積させる
- 福生市公共施設等総合管理計画
  総量抑制の原則を念頭に、複合化による施設、機能の連携を通じて、施設設備の共用化を進められるよう、効率的に運用できる施設の整備を行う

福生駅西口地区公共施設整備の方向性（４つの柱）～４つの機能整備～

スポーツ・アクティビティ機能
①スポーツと自然との調和、ふれあいの拠点施設
◆スポーツ・イベント等の体験体感型拠点としての整備を行い、天候にも左右されずに日常生活の中で、多世代が生き生きと気軽に楽しめる施設を目指します。
◆健康づくりと生きがい・ライフワークに根ざしたスポーツ施設を目指します。

文化発信・交流機能
②多くの人々が出会い、文化的活動を通じ交流する施設
◆ともに学ぶ、創る、演じることにより新たな出会いやふれあいを創り出し、文化芸術・生涯学習活動等を通じた、人と人との様々な関係の形づくりを目指します。
◆性別や世代を超えた市民の交流を目指します。

知的空間創造機能
③市民一人ひとりが学び、創造する喜びを感じられる施設
◆図書を中心に、子どもから大人まで様々な作品に触れるだけでなく、全ての市民が新たな文化に出会うことができる知的な空間となる施設を目指します。
◆新たな居場所を作り、市民一人ひとりが創造の主役となり、日常生活に潤いやゆとりをもたらすだけでなく、新たな創造活動の源泉を生み出すことができる施設を目指します。

健康増進・子育て支援機能
④健康と子育ての拠点となる施設
◆子育ての充実と高齢化社会に対応した健康づくりの拠点となる施設を目指します。
◆多世代や地域の交流により、子育て世代の満足度をアップさせていくような施設を目指します。

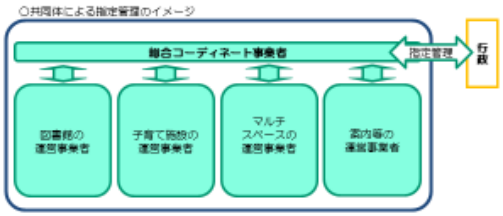
公共施設整備に向けての考え方

1 施設の利用を市民交流中心とした地域文化・賑わいの創造に結びつけるためには、まず利用しやすく親しみやすい施設の在り方が求められます。誰でも利用できるエントランス等の共用スペースを中心に、日当たりの施設以外の施設に立ち寄りやすく、施設ごとに発信する情報にも容易に触れられる施設とします。
　また、バリアフリー、多言語対応等、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインに基づいた施設とします。
2 公共施設が設置される福生駅西口地区は、福生駅に接する市の中心市街地であり、福生を象徴するランドマークとしての役割を果たす施設を目指します。
3 施設の規模については、共用部も含めた床面積部分で約15,000㎡、主な機能の床面積部分で約9,800㎡と設定しています。
※ただし、この規模に関しては施設の設計段階で変更になることもあります。
4 いくつかの施設が複合化されて設置されることで、得られる効果を最大限に活かします。類似設備の共用化により、無駄なスペースを排除し、複合化する施設間での事業連携を想定した施設配置とします。
5 雨水利用や屋上緑化等、また、太陽光発電、エネルギー共用・循環等を積極的に採り入れ、環境にも配慮し、地域でのエネルギーの融通等にも考慮した施設とします。
6 防災機能を高め、災害時における、近隣住民や福生駅での帰宅困難者の避難施設や防災拠点としての役割に対応できる施設とします。
7 幼児から中高生や高齢者といった幅広い年代層が、相談・活動できる場の設置を検討します。
8 市役所との連絡機能を設けます。
9 民間の活力やノウハウを最大限に生かし、整備後の運営を視野に入れた施設を検討します。

運営体制方針

1 一体的な運営
目指す姿である「融合したひとつの施設」としての管理運営を実現するため、従来の公共施設の運営形態にこだわることなく、施設全体を一体的に運営します。
2 民間活力を積極的に活用
多様な利用者ニーズに応えながら、コストとのバランスを重視した効率的な運営を行うために、専門性や独創性、柔軟性など、民間の持つノウハウを積極的に活用します。

○共同体による指定管理のイメージ



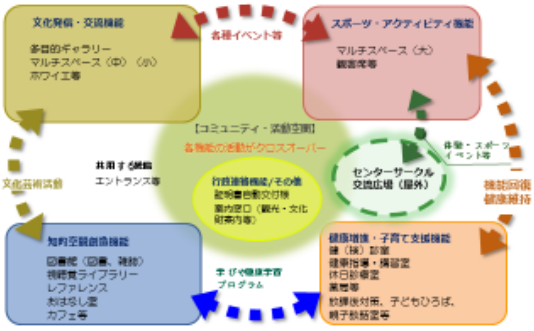
福生駅西口に整備する公共施設全体の施設内容・主な機能

スポーツ・アクティビティ機能（約2,500㎡） マルチスペース（大）、観客席等	**健康増進機能（保健センター）**（約1,000㎡） 健（検）診室、健康指導・講習室、休日診療室・面談等
文化発信・交流機能（約2,800㎡） 多目的ギャラリー、マルチスペース（中）（小）、ホワイエ等	**子育て支援機能**（約600㎡） 放課後対策、子どもひろば、親子教室等
知的空間創造機能（約2,800㎡） 図書館（図書、雑誌）、視聴覚ライブラリー、レファレンス、おはなし室、カフェ等	**行政連絡機能**（約50㎡） 証明書自動交付機、庁内窓口（観光・文化財案内等）等

※その他必要関係諸室については、効率的な運営を目指し事業者と協議し検討をします。面積については誰でも利用できるエントランス等の共用スペースを除いた面積となります。

主な機能の規模
約9,800㎡

福生駅西口地区公共施設・複合化による具体的な効果（主要施設間）イメージ



○施設整備に向けた今後のスケジュール
※再開発準備組合が目指すスケジュールとの調整による

- 令和２年度　実施計画の作成及び都市計画決定（予定）

福生駅西口地区公共施設整備基本計画（概要版）

福生市企画財政部行政管理課
福生市都市建設部まちづくり計画課

５　令和元年実施　地域懇談会の報告

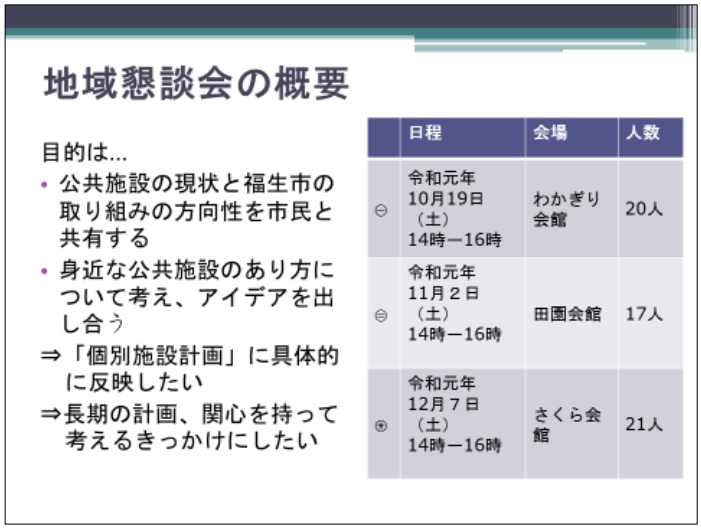
報告者：小澤　はる奈氏

令和元年 10 月から 12 月にかけて福生市が実施した「福生のハコモノを考えよう　地域懇談会」のファシリテーターを務める。

- 環境自治体会議事務局長
- ＮＰＯ法人環境自治体会議環境政策研究所理事長
- 元福生市基本構想審議会委員
- 元公民館運営審議会委員

皆様こんにちは。この秋に「福生のハコモノを考えよう地域懇談会」というタイトルで３回にわたって懇談会を開催してまいりました、その進行役を務めさせていただきました小澤はる奈と申します。今肩書を御紹介いただきましたが、たぶん聞きなれない言葉ばかりで「何やってんだ、この人は」という感じだと思いますけれど、私もみなさんと同じ福生市民です。福生に住んで６年経ったかと思いますが、福生に住む前から仕事の中で、福生市役所では環境に関する行政の取り組みを市民の方が入ってチェックするという珍しい「環境マネジメントシステム」をやっていまして、それをお手伝いする仕事をやっていました。

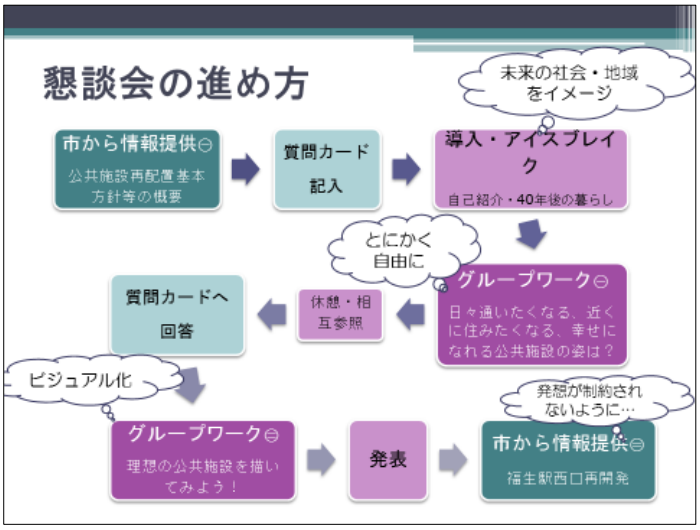
また、公民館運営審議委員や、市の総合計画の基本構想審議員を仰せつかる機会もあり、環境分野だけではなく、いろいろなところに顔を出す機会が増えてきましたから、ここにひっぱり出されたのかなと思っていますが、私自身は、公共施設のマネジメントとか建物に関しては全く素人なのです。たぶん皆様、一般の市民と同じフラットな目線で、今回この場にいるのではないかなと思っておりますが、進行させていただいた地域懇談会について簡単に内容をご紹介したいと思います。



懇談会は昨年 10 月から 12 月にかけて、３回開催しました。おおむね中学校区毎に 1 回ずつというイメージで実施したんですけれど、初回が 10 月 19 日、二中学区のわかぎり会館、２回目が

11 月2日、三中学区で田園会館、最後 12 月にさくら会館、一中学区でさせていただきました。

毎回の時間が 2 時間ということで、非常に制約がある中だったのですが、今日、菊地課長から説明いただいたような、公共施設について、こういう現状ですよというのを皆様で共有した上で、未来の公共施設に欲しいアイデアをどんどん出していきましょう、ということで進めた会でした。みなさんから出していただいた意見をそのまま計画にすることはできないですが、いくつかは個別施設計画に中に反映して、実際の施設づくりにつなげていこうということでやったものです。



2 時間の流れですが、はじめに市行政管理課の方から、今日菊地課長からお話があったような内容の情報提供をしていただきました。その際に、今日の資料には福生駅西口の再開発の計画も添付されておりますが、地域懇談会では、冒頭には説明はしませんでした。「西口にこういう施設が造られようとしている」と出してしまうと、公共施設ってこんな感じになっていくのねとイメージができてしまって、みなさんの自由なアイデアが出てきづらくなる、こっちに引っぱられてしまうかなという心配があったものですから、西口の話は後にとっておいて、最初の前半のところだけ、今後 40 年かけて総量を減らしながら、集約化とか複合化とかを考えていますということを、紹介していただきました。

そして、ご質問があれば自由に書いてくださいということで、カードに書いていただいて、それを集め、その場ですぐ返答するのではなくて、整理をする時間が欲しかったので、先にグループワークに入りました。

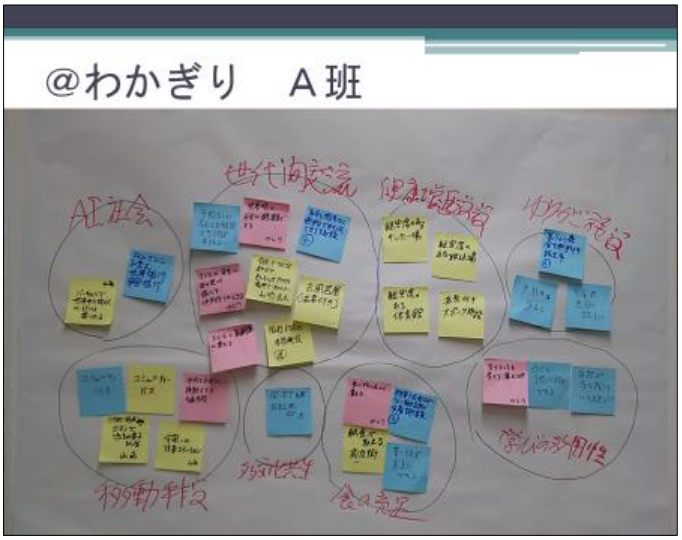
導入はアイスブレイクということで、自己紹介してもらったのですが、40 年後をイメージして、自分の暮らしはどうなっているか、あるいは、ワークショップに来ていただいた方もわりと先輩方ばかりでしたので「40 年後はお前はいねえよ」（会場笑）みたいに言う方も結構いましたが、「草葉の陰からお子さんやお孫さんが 40 年後どんな暮らしをしているかちょっとイメージしてみてください」と言って、自己紹介をしていただきました。

そのまま、グループワーク第 1 弾ということで、日々通いたくなるような、近くにあるとここに住みたくなるなと思えるような、住んでいて幸せになれるような公共施設ってどんな姿でしょうねということを声掛けして、皆様にたくさんアイデアを出していただいきました。それが、会場の後、ちょっと振り返って見ていただけますか、その時の付箋貼った模造紙を、そのまま貼り付けていただいております。まずは、付箋にアイデアを書いて

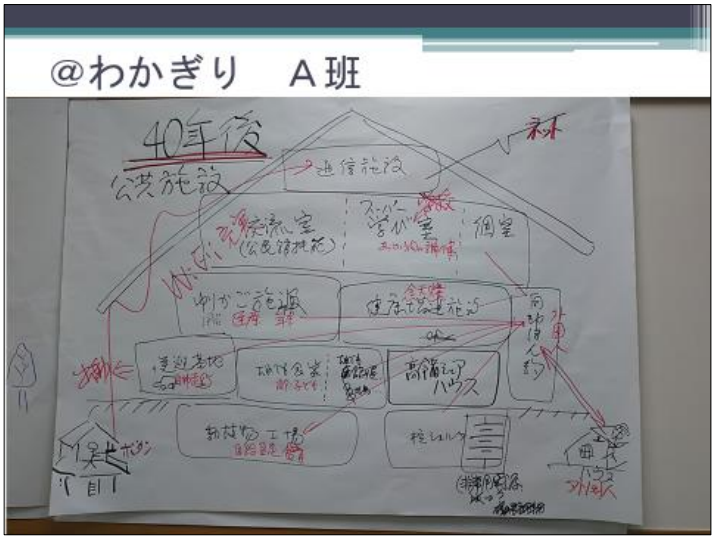
貼り出しをして、似たものをグループにまとめて、丸で囲むという作業をしていただきました。いったん休憩に入って、３回とも３つのグループに分けたので、休憩の間にお互いに他のグループのものを見るということをやっていただきました。

休憩を挟んで、質問カードに対する回答を行政管理課の方からしていただき、グループワーク第２弾ということで、付箋に書いたものをもとに絵を描いてください、理想の公共施設の絵を描きましょう、ということで描いていただきまして、その絵も後ろに貼出しをさせていただいております。本日もこのあと休憩にかかりますから、ぜひ見ていってください。

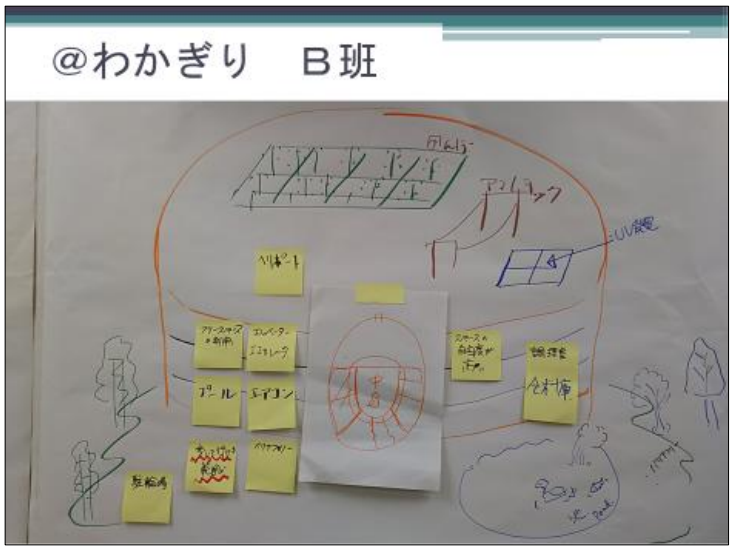
そのあと、西口の再開発のことも情報提供させていただいて、最後に感想を書いていただいて解散しました。



ちょっとだけ見ていただきたいのですが、これは、わかぎり会館で行った時のある班の付箋の様子ですが、真ん中の辺に「学びの多用（様）性」ですとか「民間の施設」、「医療」ですとか、「年金、天引きは少なく」とか切実なことも書いてありますけれど、あとは「健康増進」ということで、観客席がある野球場、サッカー場、スポーツ施設、温泉とか。あとは「世代間交流」という輪があって、お風呂とか、災害時に安全避難できる場所とか、予約なしでも、いつでも相談できる場所がほしいとか、こんなことを書いていただいております。そういったグルーピングがこんなイラストになっておりまして、複合施設は地下一階、地上三階建てですかね。地下にはおもしろいですよ、核シェルターがあって、地震とか台風だけではないんですね、核攻撃の対応を考えていますよとか、交流者のシェアハウスがあって、隣には誰でも食堂があって。



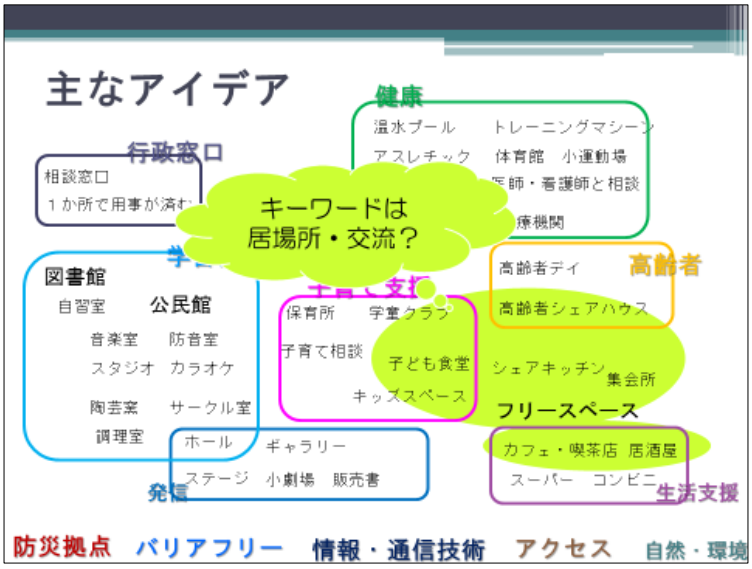
40 年後らしいなと思ったのは、中心施設があって、この中で便利に Wi-Fi が使える、家でボタンを押すと迎えに来てくれる、車が出ていって、自動運転で迎えにきてくれる、なんていうことをイメージしてくださっています。



これは別のグループですけれど、絵だけ見てもらいます、こちらも３階建てですね、中庭をはさんで、お部屋がぐるりと囲むようになっていて、中庭に来れば、どの部屋でどんなことをしているかが見られるコンセプトですね。調理室があったり食糧庫があったりして、災害時にも対応できる、バリアフリーに対応して、エレベーター、エスカレーターは必須でしょうというお話があったり、間仕切りがフリーで動かせるようになっていて、スペースが自由度高く使えますよというお話があったりとか、屋上には田んぼがあって、子どもの遊ぶアスレチックがあって、最新技術の UV 発電による再生可能なエネルギーで賄えますよという絵を描いてくれたグループもありました。

こんな感じで非常に多岐にわたるアイデアがたくさん出た、すごく面白かったワークショップでした。ぜひ後ろの模造紙、見ていってください。

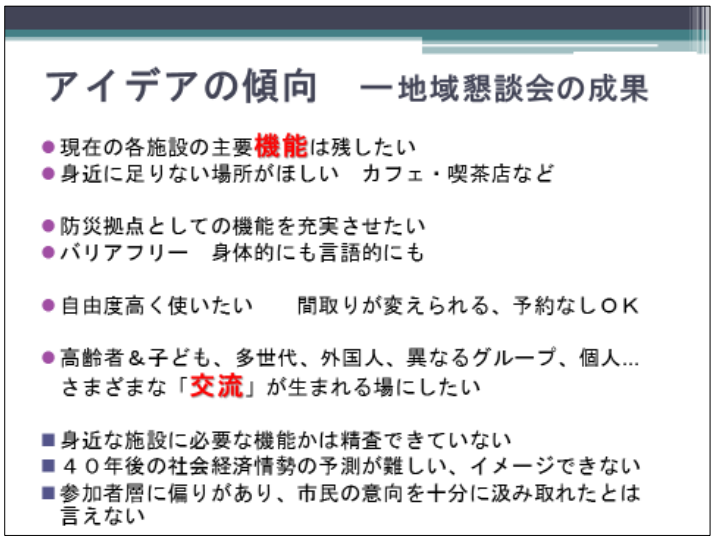
お手元の資料の中にはワークショップで描かれたアイデアが、言葉で書き記してあります。その中で主なものだけ、前に書き出してみたのですが、だいたいどの回にも共通したのが、健康施設。温水プールがあって、アスレチックがあって、お医者さんや看護師さんがいて相談できるコーナーがあって…ということであったり、その下には高齢者のデイサービス、シェアハウス、真ん中に子育て支援、保育所、学童、子ども食堂なんかがあるといいなっていう話もありました。それから、学習機能ということで、図書館や公民館、その中には、音楽室とか、スタジオとか、陶芸窯があったらいいなとか、サークル室がたくさんあったらいいなという声があったりした。あとは今の公共施設にはあんまりないと思うのですが、カフェや喫茶店、居酒屋っていうのが必ず出ましたね。私も大賛成ですけれど（会場笑）



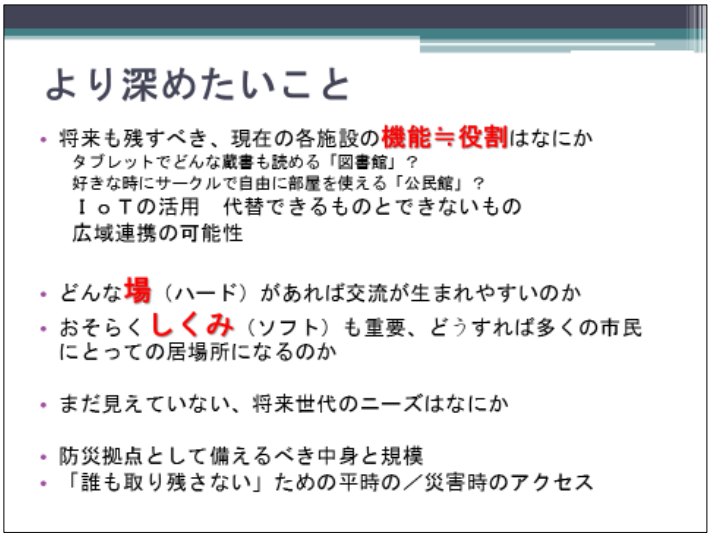
こういうものが身近にあったらいいねという話もありました。

私が皆様の議論を聞いていて、すごく印象に残ったのは、みなさんの真ん中にあった思いというのは居場所が欲しいとか、そこで交流が生まれるようになるといいなとか、「居場所」と「交流」というのがキーワードだったのではないかなと思っています。

アイデアの傾向をざっくりまとめますと、今ある施設の主要な機能はやはり残したい、おそらくみなさん公共施設に関心があるから出てきてくださっていて、それぞれ使ってらっしゃる居場所があると思います。そこはやはり残してほしいという思いがあるのは当然だと思います。プラス身近に足りていない、カフェとか喫茶店、ちょっと集まってお話ができる、お茶飲める場所みたいのがほしいなというニーズが非常に強かったと思いました。それから防災拠点としてしっかりした機能がほしいとか、バリアフリーですね、これは体が弱ってきても使えるとか障害があっても使えるとかいうことの他に、外国人が多いという地域でもありますから、言葉の壁がなくなるような、自動翻訳とかですね、そういったものが欲しいなんていう声もありました。それから自由度高く使いたいというのもいろいろなグループに共通していて、間取りが変えられるとか、予約しなくても使えるスペースがあるとか、そういった話と、高齢者と子ども、多世代、外国人と日本人、それから異なるグループどうし、あるいはグループに属していなくても、ぽっと行った個人同士がそこでつながれるような、交流が生まれる場所にしたいなというのが共通した御意見だったかなと思います。



ただやり足りなかったことも一方でありまして、身近な施設で、歩いて通える範囲の施設で考えるというお題を投げたのですけれど、例えば温水プールが市内に３か所も必要かというとたぶんそうではないですよね。そういう身近な施設、日々通う施設に本当に必要な機能なのかなというのをこの会で精査ができなかった、というのが１点。



あとは、やはり皆様から聞かれたのは 40 年後のイメージって難しいよねということでした。それは自分自身がここにいるかどうかを含めてなんですけれど、これだけ変化が激しい社会ですので、どういう社会になっているのかがイメージできないですね。あとは、参加者層に偏りがあると書きましたが、ぶっちゃけ、参加者は先輩たちばっかりでした。中には市役所に今年入ったという若い職員さんが出てきてくださり、その会は、２０代から７０代で構成されたグループなんかもできて、すごくおもしろかったのですが、それ以外は先輩方にたくさん活躍していただきまして、私が一番若手みたいな感じだったので、市民の意向を広く十分くみ取れたとは言い難いかなと思っています。

これから必要なのは、「主要な機能」というけれど、いったいどういう機能？ということだったり、交流が欲しいって言うけど「交流」ってどういう交流なのっていうことだったり、その辺を深めていくことなのかなあと思います。例えば図書館の機能といっても、本の電子化が進んでいくでしょう、タブレットが１個あればどんな本も読める、そういう図書館ならいいのか。公民館は好きな時に行ってサークル活動ができる部屋さえあればいい、そういう公民館でいいのですか？あとは IT が発展するけれども職員さんが誰もいなくて、ボタンを押せばインターフォンで本庁とつながって話ができるっていう施設だったらそれでいいのかな、とかですね。変わっていく社会で残すべきものは何なのかってということをもっと掘り下げていく必要があったのかなと思います。

それから「交流がほしい」って言いますけれど、場所があるだけではだめなのかなと思います。多分しくみも必要で、どういう仕掛けがあれば気軽に、たくさんの人が来てそこでつながりが生まれる、交流が生まれる場所になるのかなということもあわせて、ハコモノだけではなく中身のことも考えていく必要があるかなあと思います。

それから、今回参加していただけなかった 40 年後の主役の人たちの見えないニーズの掘り起こしなんかも必要かなと思います。まだまだ、やっていくべき課題は多いなあと感じたのが率直なところです。

さっき讃岐先生の話にもありましたけれど、本当はハコモノの話だけではないのですよね。まちそのもののこと、私たちのこの地域での暮らし方そのもののことを考えていくことがハコモノを考える一つのきっかけになるのかなあと思いました。ぜひ、これで終わらせず継続的に、話をする場を作っていただきたいなと思っています。ということで後半のディスカッションにつなげていきたいと思います。ありがとうございました。

６　ディスカッション「福生市の公共施設の将来の姿」

ファシリテーター：小澤　はる奈氏（ファシリテーター）
登壇者：讃岐　亮氏（首都大学東京助教）
　　田村　光男氏（地域関係者）
　　加藤　育男氏（福生市長）

登壇者：田村　光男氏

福生市の現在の公共施設の配置の基礎となる、福生市社会教育基本構想の中間報告を、昭和 50 年当時に、福生市社会教育委員をお勤めの中でまとめた。

- 武蔵野台一丁目町会長
- 福生市文化財保護審議会委員
- 福生第二中学校の学校支援コーディネーター
- 元福生市公民館運営審議会委員

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

では、ただいまのお時間からディスカッションということで、非常に短い時間で大変申し訳ないのですが、できるだけ濃いやりとりができるよう進めてまいりたいと思います。せっかく今日は讃岐先生にお越しいただきまして、非常に示唆に富んだ話をいただきましたので、その中からキーワードを拾いつつお話をすすめていきたいと思います。

まず、「ビジョンを持つこと」、公共施設の再配置等のことは手段であって、まずはどういうまちにするのか、ビジョンを持つことが一番大事だということが、プレゼンテーションの中でありましたが、今の福生市の公共施設の配置は、先程来お話が出ています、昭和 50 年に作られました社会教育基本構想が元になっているということなのですね。まず、田村さんにお伺いしたいのですが、社会教育基本構想を作る時にどういった思いがあって、今のような配置を考えられたのか、そして当時描いていたこういう風にしたいなという思いがあったとして、今現在の姿、実情と比べてそのあたりどのようにお考になっていらっしゃるか、教えていただけますでしょうか。

● 登壇者：田村　光男氏

まず私がここにいるというのは、紹介していただいたように、社会教育委員になったということですけれど、当時は青年代表の委員として参加していました。ちょうどその時期に基本構想、中間報告があったということで、ここに座らせていただいておりますけれども、当時の課題ですね、それを語るにはヒトコマ 50 分設けていただかないといけないのですが（会場笑）、一言で言いますと町民がハコモノを求めているのにハコモノがなかったということですね。あえて今町民って言いましたけれど、その頃、1970 年というのが今年 50 周年を迎える市制施行の年になりますけれども、ちょうどその頃。青年団がなくなっていく中で、新しいサークルができていく、で、青年の中でも私は吹奏楽愛好会っていうのを立ち上げたのですが、フォークダンス、フォークソングだとか、あと演劇もありました。それから学習サークルということで、さっき菊地さんから紹介がありました成人式ですね、その実行委員会がそのままサークルになっていく、そういうようなことで青年サークルだけで１０サークルありました。で、その皆がハコモノを求めていたということです。そういう期待を受けた中で、基本構想、これが作成されていく、その過程の中で、「公民館を創る会」というのが立ち上げられて、市へ要望を出していく、そして市と一体となって、官民一体といいますか、両方が向かいあっていく。さっきの菊地さんの話のように、インフラの整備が進んでくる、横田との関係もある、いろいろな状況が重なった中で、市の方も社会教育に取り組んでいこうとしていく。そういった時期に青年たちが主軸となって「公民館を創る会」を立ち上げた。当時の文化連盟とかいろいろな団体がありましたけれど、そういったものと一体となって、ハコモノを求めていく、それが当時施設を造っていった理由ですけれど、その辺の中身についてはですね、省略していきたいと思いつつしゃべってしまいましたが、「福生市史」、福生の歴史をまとめた本、上巻、下巻あります。下巻のところで、戦後の社会教育という欄がありますけれど、そこで 30 ページくらい、私が書きましたが、そこにまとめられています。１巻 7,000 円になります（会場笑）、郷土資料室で販売しております。ぜひご興味があればお求めください。

市制施行 5 年後に、基本構想ができるのですが、そこで選ばれたものが　今現在のハコモノそのものです。今あるものがその構想にしたがって、できあがったものということです。今の現在を見ていただければ、何を造りたかったかということがそのまま実現されているわけです。

専門性を持った中心施設をつくって、地域に分館を配置していく、分館は学習等供用施設として地域住民のよりどころとしていく、そして地域の先には、町会の存在が明記されている、そういうような形でつくられていきました。

私が今いる、武蔵野台一丁目町会は昭和 50 年、市政施行 5 年目、まさに中間報告が出された年にできた新しい町会です。当然人が集まる場所がなくて、設立総会も、産業道路沿いにボウリング場があったのですが、そのボウリング場の会議室を借りて、スタートしています。

今は児童館、図書館そして地域体育館のある武蔵野台ですけれども、ハコモノも何もない時代だったのですね。その中で武蔵野台一丁目に、その後できる松林会館とともに歩むという形になっていきました。松林会館がまさにコミュニティづくりのよりどころになっていった、町会がよちよち歩きをはじめ、それとともに松林分館も歩いていったという感じになります。

当時、構想の中で思うようにいかったもので何があるかというと、博物館です。それと専門職の問題、この２つが実現できてなかったと言っていいかと思います。で、ハコモノとしては博物館だけが取り残されていった、という形ですけれども、そのことについては時間がありませんのでそこまでにしておきます。

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

ありがとうございました。今、武蔵野台一丁目町会と松林会館のお話が出ましたけれど、松林会館って非常に面白くて、公民館の中でもサークルに所属しているしないにかかわらず地域の方たちが松林を使って松林のまつりをやっている非常に面白いところなのですね。

今のお話を聞いて、あぁなるほどなって納得をした思いです。そのように市民の方たちが、施設をつくる、そして施設の成長とあわせて地域も成長していくみたいなイメージがあったかなと思うのですが、それが今までのお話。そこで、市長にお尋ねしますが、これから先、基本構想の中で、「人を育み　夢を育む」というフレーズができて、これについては、私とか田村さんとかが入って基本構想を考えたわけなのですけれど、それを具現化した将来のまちの姿、どのようなイメージをお持ちですか。少し具体的に市長のお言葉でお聞きしたいと思います。

● 登壇者：加藤市長

まず、讃岐先生、今日はありがとうございました。すばらしい講演でした。

今、将来の福生がどういう形になっていくか、先程、小澤さんのまとめの中で、一番印象的だったのは、まちそのものの見方を考えるということでございます。また、今の田村さんのお話で非常に印象に残っているのですが、今の施設の在り方というのは、当時の基本構想、そのとおりにハコモノができていたということでございます。

少子高齢化というのは避けて通れない、これは全国的な傾向でございますので、私共、考慮していかなければならないと思っています。讃岐先生の講演の中の明石市の話の中で、子どもが主役のまちづくりと明石市長がおっしゃっていたことについて、私も何回かお会いして、話を承っているんですけれど、福生市も「子育てするならふっさ」というやり方で、積極的に施策を行っています。

もちろん高齢者の施策もしっかりとやっていかなければならないのですけれども、人口減少は避けて通れないので、身の丈に合った、そして自分の子どもや孫にしっかりとたすきをつなぐ意味でも、持続可能なまちづくりを推進していかなければならないということを、現実まったなしで私共もやっていかなければならないというところがございます。

そして基本構想の中身のお話がありまして、「生み出す」「育てる」「守る」「豊かにする」「つなぐ」というキーワードの中でこれを実践していかなければならないということでございますので、これからは理念性があって、そして高齢者の方にもやさしい施設をしっかりとそこに形作っていかなければならないのではないかなと思っています。40 年かけて今ある施設を理念性のある施設に変えていくというのは大変難しい仕事だと思っていますけれども、持続可能なまちづくりを実現するため、市民の皆様の意見を聴きながら、しっかりと取り組んでまいりたいとやっていかなければはできないと思います。

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

ありがとうございます。高齢者にやさしい施設という話がありましたけれど、たぶん高齢者の方たちに使いやすい施設を考えていきますと、いわゆる社会的弱者といわれている例えば子育て世代だったり、身体的に障害がある方だったり、フルパワーで動けない人たちもあわせて快適に使える施設になっていくのかなあと思います。みんなにやさしい施設という考え方が、「高齢者にやさしい」という規定からはじまるのかなあと思いました。

次のテーマにうつりたいと思います。「やりたいことをイメージしよう」というステップの次に、「共有して具体化しよう」というお話が讃岐先生からありました。その際に地域のコンテンツに何があるか確認するのが最初だよというお話があったと思うのですが、地域

のコンテンツ、資源と言い換えてもいいかもしれません。福生って狭い地域にコンテンツが非常にたくさんある地域だなと思っています。歴史的な建物しかり、国道 16 号に代表されるアメリカンな街並みがありながらも、自然も豊かというまれな地域だと思うのですけれど、そういった地域の資源、ハード的なものもあり、ソフト的なものも両方あると思いますが、地域の中でそういったものも生かしながら活動している一つの代表が武蔵野台一丁目町会かなと思っています。そちらについて田村会長におききしたいと思いますが、地域の資源を活かして、地域の方たちがそれを活かした活動を実践しているような実践例がありましたら、ご紹介いただけますでしょうか。

● **登壇者：田村　光男氏**

ちょっと話の始まりに、さっきの続きなのですが、基本構想の中でやり残していたというか、実現できていない、武蔵野台に限らず、福生全体で考えた時、博物館構想、今は図書館の中の一室に留まっておりますけれども、文化財の収蔵スペースの確保も含めて単独の資料館がほしいなあと。今内閣府で文書管理の問題がありますけれども、福生市でも公文書の永年保存だとか、とっておく必要性のあるものもずいぶんたまってきたりしていると思うんですが、そういうものも含めて収蔵する施設、それを持った単独の博物館、これが必要かなと思っています。

前回、これが見送られたのは、それを造ったとしても中に入れるものが無いという話もありまして。今はですね、日本刀だとか、いろいろな収蔵物、文化財を集めていますし、そういったものもいれた形で造りたい。ただ単独でつくるのはとても危険で、ぽつっと造っても人が来てくれないとどうしようもない。

それと同じようなことが今心配なのが、古民家。あれもぽつっとあるものですから、古民家だけを目的に、人が来るかなあということもあったりするので。私がイメージするのは瑞穂町のけやき館と耕心館、あそこと同じような形で民家と博物館が隣り合っている、あのような形のものを造りたい、それで、今福生駅前のところで、再開発が進められようとしていますけれども、あそこにも文化施設をつくる計画がありますから、そこを起点として、古民家や将来の博物館がある、そのところを通過して、福生の和の文化の回廊である田村酒造の方、あそこまで、足をのばす、ちょうど、くるみるふっさがそういった観光コースを作ってやっていますけれども、そしてさらにそこから、羽村方面に上水をあがっていけば、かに坂公園や加美上水公園のところ、あの辺には自然が残っていますし、そういった場所を含めた歴史自然ゾーンみたいな形をつくっていく、ただ単独でハコモノをつくればいいっていうものでなくて、他のものとからめて価値を高めながらつくっていく、ということで、前の構

想のところで実現できなかった単独館、それができたらいいなあって思います。

あとですね、ハコモノを作ったときに利用者という観点、これも大事かなと思うのですけれども、西口の公共施設に図書館が入る計画がありますが、そこでもし図書館を造るとしたら利用する人は、電車を降りた人とか、再開発地区の居住棟、そこに住む人たち、そういった人たちかなあと感じたのですけれど、そこに中央館と同じような、たくさんの本を並べてしまったらちょっとおかしなことになってしまうのかなと、せっかく少しコンパクトにしていこうというのに大きな図書館２つできるような形はまずい、一方、これをつぶそうかというと、これもちょっと重たそうなので、そうではなくて電車を降りた人が本を借りる窓口みたいな形で、リクエストしたり本借りたり、そういうものがあれば、牛浜の方の図書館もそのまま使っていけるのかなあと、あるいは車で行けること。誰が利用するのかなということ、誰のためにつくるのかをしっかりふまえる、その辺のところが大事です。

あと、利用者ということなのですが、私はうっかり、あの地域懇談会に参加してしまったのです（会場笑）、あそこに懇談会の時の紙が貼ってあるのですけれども、自己紹介がてら40 年後を描いてくださいって言われたので、私、名前入りで「田村光男　日本人が 50%かな」、そんなフレーズを付箋に書いて貼ったのですが、外国人が相当増えちゃうのかなと思います。当然ハコモノといわれるところも、外国人の利用者が多くなってくるのではないかと思うのですけれど、松林会館で今度の 12 日に多文化共生事業ということで、外国人たちと会話をしようというそんな企画が、そのものは白梅会館の企画からきたらしいんですけれども、武蔵野台の方に日本語学校があるので、地の利ということで、そっちでやろうかということで、やるみたいですが、その武蔵野台ですが、午前中も市長と一緒だったのですが、起震車を呼んで、公園で起震車体験をやったのですが、すぐ向かい側に留学生たちがたくさんいる専門学校があるのですが、そこの場所を借りて、一緒にやったのですが、外国人を市民として受け止めていくことを考えて、いろいろと発想を豊かにしていかないと、場合によってはイスラムの礼拝スペースを造ってくれとかいうことが出てくるかも知れない。

先々考えた時に、今まで考えられないようなことが必要になってくるのかなあ、例えば松林会館は 2 階建てですが、当時は２階にエレベーターは絶対必要ないだろうと言われていたのですが、今、松林会館では高齢者が、2 階にあがれない、2 階に大勢集まれる場所があるのですが、老人クラブの催しをやっても 2 階にあがれないから、参加できない人が今でてきてしまっている、そういう中で老人にやさしい市長がどうにかできないかなあ、研究していただいていると思うのですけれど、なかなか難しいことだと思うのですが、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、そういったことが重要になっていくのかなあと思っております。

「歩いてすぐの距離に快適に過ごせる地域会館」ということです。そして、それは無くせないのかなと思います。総量抑制による統合といった発想が、遠距離施設を造ってしまう、そういったことが利用者にとってどうなのか心配です。アクセスというのは非常に大切なことなのかなあと思っています。

それから現在の地域会館、松林会館もそうですが、避難所としては位置付けられていないのですね、だけれども今回の台風のようなことがあった場合には、一人で住んでいる方が、風が不安だ、そういった時にちょっと受け入れてあげられるような、災害対策的なこと、そういうことも考えたらいいのかなと思ったりもしています。

で、今、未来のハコモノを考えているということなのですが、西口で基本計画ができ、そして、さっきどんな施設がほしいかっていうことが地域懇談会で話し合われたとのことでしたが、我々はつい、テーマパークみたいな感じで１つ、どーんと作ればいいみたいな感じでとらえてしまうのですが、そうではなくて、やはり近くに行けるところがあるといった形で全体的な構想を考えなくてはならない、そして、駅前の公共施設の基本的な設計がはじまってしまう、ということはそこで全体構想の一部は固まってしまうのかと、40 年先を考えるっていいながらも、来年西口の基本構想ができるってことはもう未来はすぐそこなんだなあ、そんなふうに感じております。

● **登壇者：加藤市長**

田村先生ありがとうございました。私の方からも少し。西口公共施設については、今担当と話をしていますし、詳細はこれから考えていくわけですけれども、図書館に関しましては、福生市の既存の図書館は快い施設でございます、そして西口にも造る動きがあります。

それと地域会館ですが、２階に登れるようなエレベーターができたらいいなあと思っています。担当と話をさせていただいております。

それから午前中、武蔵野台一丁目町会とディライトグローバル専門学校共催の防災イベントがありまして、中国籍の方、ベトナム籍の方とお話をさせていただきました。武蔵野台一丁目町会が、とてもすばらしいことをしているのだなあと思ったのは、やはり福生市が６万弱の人口の中に 4000 人近い外国人がいらっしゃる、それも 60 か国の方がいらっしゃる、窓口対応では１３か国の言語で対応させていただいておりますけれども、あの台風第 19 号の時も、東日本大震災の時も外国人の方にどうやって情報を伝えようかという課題がありました。これからの検証にかかっているところでございますけれども、その方たちも福生市民でございますから、これからああいうところで交流していただいて、仲良く、様々に助け合うのは大切なので、今日午前中は素晴らしい体験をさせていただいたと思います。あ

りがとうございました。

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

ありがとうございます。時間が本当になくなってきてしまって、あと一問、二問くらいお聞きしたかったのですがそろそろ、まとめに入らなければいけません。讃岐先生、聞く一方で申し訳なかったのですが、最後にちょっとお尋ねをしたいです。

やはり今回思ったのは、今、公共施設を使っているとか、公共施設に関心がある方は懇談会なり今日の会に出て来てくださっているのですが、そうではない方たちも、もっと声をあげていかなくてはいけないなあと、ひしひしと感じています。それに今、外国人のお話もありまして、外国人の方が非常に多いというのが福生の特徴になっているのですね。そういった方たちは今現在なかなか市の意思決定に関わってくるようなタイミングって、あまり無いと思うんです。まだまだこういった問題、ジブンゴトになっていない方たちを引っ張ってくる、あるいはそういった方の意見を反映するためには、どういった工夫が可能なのか。ちょっとアイデアいただけるとありがたいです。

● 登壇者：讃岐　亮氏

福生市では、出前講座をやっているとのことです。出前講座を中学校、小学校でやったらいいと思うのですけれどいかがでしょうか。実際になんでこういうことを申し上げるかというと、やっている自治体があるからなんです。小学生とか中学生に公共施設の再編の問題をわかってもらえるだろうかって皆様思いますよね。きっと。でも、実はわかってもらえるのです。簡単に吸収して、もしかしたら皆様よりやわらかい頭で、ぽっと答を出してくれるのですって。そういうことやっている自治体、いくつもあります。

出前講座でいくというのも一つのアイデアと思いますし、あと市民協働という点ではですね、せっかくみなさんが、後方に貼られた成果物に書かれているようにあれだけたくさんアイデアを示してくれるような知見をお持ちなのですから、その方々が小学生の出前講座に行くとか、もっともっと単なる行政職員と小学生、行政職員と市民、行政職員と高校生とかそういうつながりではなくて、皆様同士で交流できる機会がきっかけになると思います。それが小澤さんが最後まとめておられた「居場所と交流が必要だよね」という皆様の意見を引き出したことと、あわせて考えてうまいこといくのではないかというふうに今、ぱっと思いつきました。ぱっと思いついたので、これは本当にうまくいくかどうか、わからないですけれど、そういったアクションは絶対大事です。知らない人との出会いで生まれる刺激はたくさんありますし面白いですから。そういうところをネタに、ネタにというと失礼ですが、子供たちともかかわれたらいいのかなと思いました。

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

ありがとうございました。非常に具体的なアイデアをいただきました。今日、教育長も来てくださっています。ありがとうございます。ぜひ調整していただいて、実現できると、学校に出向いていくのはいいと思います。ありがとうございます。

このディスカッションの最後になりますが、讃岐先生の今日のお話で、皆様からいただいた意見、市政に反映してはじめて意味があるということだったんですけれど、実はすごく厳しい。今回出た御意見を全部反映するとお金がいくらあっても足りないと思うんですが、いただいたものをどんな形でこれから計画に反映していくお考えか、市長お答えいただけますでしょうか。

● 登壇者：加藤市長

ありがとうございます。本日会場の後に掲げられている、市民からの御要望というか御意見、全部実現することはまったく不可能というわけではないのですけれども、非常にアイデアとして斬新なものもございますし、こういう夢のある事業というのはしっかりと実現の方向に、できるかぎり可能な形にもっていかなければいけない、それが私共の仕事ですので、ぜひこれからも、これだけでは終わらせないで、様々な部分、もっともっと市民の皆様から声を寄せていただいて、それを実現の方向に持っていく覚悟でございます。最後におっしゃってましたよね、想いの強さと、覚悟は必要ということでございますゆえ、自分もそういう形で取り組んでまいりたいと思います。

● ファシリテーター：小澤　はる奈氏

ありがとうございました。覚悟をもって進めるというありがたい言葉をいただきました。もっともっと、皆様と話をしていきたいところなのですが、時間が限られておりますので、以上をもちまして終了させていただきたいと思います。御登壇された方ありがとうございました。

７　質疑応答（全体を通して）

●質問者

１点だけ私の方から申し上げたいことがあります。ＳＤＧｓの話です。私今手元に 17 の国連ＳＤＧｓに対する建築ガイドっていうのがあります。これが結構役に立つ資料ですので、そこも考慮していただければと思いますので、その辺は市長としてどうでしょうか。

●加藤市長

実は、小澤さんのお話の冒頭にありました、市民の方が市の中に入っていただくＦ-e という仕事をしていただいております、その時、必ず出るのが、ＳＤＧｓの話です。

何人たりともこぼれ落とさないで、しっかりと、様々な御意見を徴取しながら、そして持続可能な地球をつくっていくということでございますけれども、それに合わせていく、よく東京の市長会の市長どうしでも話をするのですけれど、ＳＤＧｓは、根本的な、大切な一つのルールであり、そこにしっかり向かって仕事していきましょうと言っております。

●質問者

ありがとうございます。

８　その他～閉会

●石川企画財政部長

最後に、今年度の公共施設に関するシンポジウムや地域懇談会は、これで終了となります。来年度、この様な会が開催される際には、市広報・ホームページ等にてお知らせいたします。また、もっと公共施設のことを知りたい、学びたいと言う団体様がいらしたら「市政出前講座」の中に、「福生市の公共施設マネジメントについて」というメニューがございます。詳細は、市ホームページを検索頂くか、お近くの職員や、後日、行政管理課へお問合せ頂ければと思います。これからも今後の公共施設につきまして、市民、関係者の皆様と考え、より良い姿を目指していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

最後に、本日の配布物の中に、アンケートを同封させて頂きました。ぜひアンケートへの記入に御協力をお願いいたします。

今回、頂きましたご意見は、今後の市の公共施設の検討などに活用させて頂きます。以上で「福生のハコモノ（公共施設）未来トーク　～みんなで描こう、将来の姿～」を終了いたします。ありがとうございました。

９　参加者からお寄せいただいたコメント

終了後に、今後の参考とするため書面によるアンケートを実施しました。

各設問と回答は次のとおりです。

アンケート回収数　57　（参加者数 80 人　回答率 71%）

Q1　お住いの地域

熊川：16 人　福生：14 人　南田園：５人　加美平：５人　武蔵野台：４人

志茂：３人　牛浜：１人　北田園１人　市外：６人　記入なし：２人

Q1-2　年齢

60 代：22 人　70 代：14 人　50 代：10 人　40 代：７人

20 代：１人　30 代：１人　記入なし：２人

Q2　本日の未来トークについて、全体の時間はどの様に感じましたか？

ちょうどよい：30 人　少し短い：17 人　短い：６人　少し長い：４人

Q3　本日の未来トークについて、内容は理解できましたか？

理解できた：33 人　普通：15 人　とても理解できた：５人

あまり理解できなかった：４人

Q4　今回の様なまちづくりと連携した、公共施設に関する地域懇談会やシンポジウム等が今後開催される場合、参加してみたいと思いますか？

参加してみたい：24 人　どちらとも言えない：18 人　参加したい：13 人

参加したくない：２人

Q5　あなたが思う、身近にある公共施設に欲しい機能は何ですか？（任意・自由記述）

【学習・スポーツ】

公民館などの居場所、気軽な居場所、アクセスの充実（足の悪い人が多い）、生涯学習施設はますます重要である。

学習センター機能の整備（現施設の改良）他機能と複合化

学習や趣味、目的を問わずに借りられるフリースペース（２件）

図書館

学習スペース

学校教育にも利活用できる機能

武道館的機能

年中利用できる温水プール

【集会・交流】

ちょっとした集まりに簡単に使用できるスペース

休み処・交流センター機能を整備

屋根付き広場

高齢者が気軽に遊びに行けるラウンジカフェ、広くてきれいな場所。

多様、多世代の人がつながる機能

話の分かる専門職員と楽しい交流プログラムがあるとよい。

市民会館大ホールのように多くの人が集まって、イベントやコンサートが行える施設。

コミュニティスペースを中心としてユーザーの使い方に応じてフレキシブルに変えられるつくり

【居場所】

居場所ということで自由に対話できる場所があるとよい。

小澤氏がおっしゃっていた「居場所」と「交流」がほしい。

「学び」「交流」「つながり」のできる機能を持った施設を近隣にほしい。

人をはぐくむ場、こどもも大人も成長できる場所（居場所）、昼時年寄りが集まったり午後、こどもたちが集まったり。

子ども達のための学校への、学童、児童館、体育館などの集約、そしてそこへの高齢者のための憩いの施設がほしい。

【その他の機能、利用対象】

公園（２件）（公共施設の周りに/子どもたちが自由に遊べる広い公園）

税に関する相談専門窓口、人生設計相談窓口等、ハコモノの機能でない、ソフトの充実。

40 年後なら、外国人を交えたリアルな施設づくりを。ＡＩ利用を含めフラットな多文化共生の理解できる場と、外国人含み、誰もが気軽に学べる施設を。

国連ＳＤＧｓに対する建築ガイドを参考に実現してほしい。

多機能施設、老若男女が行ってみたい施設が必要では。

多くありすぎて書ききれず、貧困/外国人弱者にも光を。
高齢者、生活弱者に特化したものではなく、健常者や若者達も多く利用できる施設。
現在の市民会館は駐車場が遠い、公共施設に近い駐車場があると思う。
バリアフリー化（２件）
コミバス
映画館
現在の各施設の利用状況を明確にすることが必要と思う。その上で考えたい。
あまり利用していないのでどのように運営されているのか深くは知らない。

Q6　その他、感想や御意見をお聞かせください（任意・自由記述）

【学校施設を核とした集約化・複合化】

学校を中心としたまちづくりはよいと思う。
学校利用するなら管理体制を一考してください。
品川区豊葉の杜学園のような複合施設を参考にしたい。
コミュニティスクールなどのソフト面も重視したい。

【総量抑制、削減、統廃合について】

施設は不要、統廃合してほしい。
ハコモノの動きに関しては、資金面の制約があるはず。この面からの話も必要ではないか。
40 年後、なかなか想像できないが、人口減少を考えると 20%減でなく、もっと減ずることも必要ではないか。地域交通を考えていけばよいこと。
40 年かけての計画でまちづくりを考えるとは不思議な気がする。少子高齢化のもたらす課題だが現在を維持するには財政が困難と思われる
福生市は身の丈にあったハコモノ所有をしていない。市民満足度をある意味で言い訳としてあまりにも華美にハコモノを作りすぎた。そのつけが結局未来を担う世代に回されている。思い切ったスクラップを判断すべき。
道路、下水道などのインフラ維持、扶助費など財政計画を考慮しながらの議論も必要では。

【フレキシブルな設計】

40 年後は何が求められる時代になっているか想像しきれないと思う。余計なデザインで費用かけるより改修しやすい建物として時代のニーズに応えられるようにしてほしい。
10 年後、20 年後にもフレキシブルに変動できる発想でハコモノを考えてください。

【ジブンゴトとして・考え方、決め方等】

「何ために」という原点に立ち返りたいと思った。
グローバルな対応を目指す、小学校での出前講座の必要を感じた。
福生の自然、文化をもっと大切に継承し資産として活かすまちづくりの視点も重要でないか？
デジタル技術活用のまちづくりも検討し進めることが重要と思う。
公共施設に必ずしも駅近であればよいのでなく利用者のターゲットにあった場所に設置する必要があると思う。
現状で 40 年後を生きる年代が、このまま福生に住んでいるかを考えてもよいのではないか？就労体系の変化もあると思うが現 20 代の 10 年後すら想像がつかない。
明石市のようにどのような市民をターゲットにしていくのかが課題と思う。誰も身近に公共施設があることを願うはず。
公共施設の歴史等理解できた。今後のあり方はみんなで考えていく必要があると思う。限りある財源を有効に生かすことは大きなテーマ。とても参考になった。
15 年後のビジョンならば見通しがつくかもしれない。行政のプランはデータをもとに現実性が必要。

【協働、共創、公民連携】

若い人たちは年配の方と一緒だと意見を出しにくいので、若い人たちでのワークショップなどをやってほしい。
市が積極的に市民の意見を聞こうとしていることは素晴らしいと思う。
ＰＦＩについて考えていくのか。
外国人の意見は？
民間施設（ショッピング、スポーツクラブ他）と市が所有しなくても連携できる施設がありそうだなと思う。（協力してくれた民間に補助を出す等の施策）

【要望】

福生駅西口再開発で市民の生活が便利になり、有効活用される施設ができることを期待する。
少年野球に関わっている、使用料についてさらに減免、グラウンドの修繕や改良、設備、草刈り機器等の貸出を希望します（陳情となってしまいますが失礼します）。

【イベントの運営面】

非常に内容のある会だった。
マイクの性能が悪く、聞き取りにくい。（５件）

ディスカッションの時間が短い。消化不良だった等（３件）
ディスカッションで登壇者の話の長さのバランスが悪い。進行役がコントロールすべき。
ディスカッションで登壇者の考えを一方的に伝えるのではなく、参加者の考えを拾いあげる形の方がよかったのでは。
市のハコモノ史は文でまとめてほしかった。資料の充実を。
講演をもう少しききたかった。（３件）
説明が早過ぎ、理解することが難しかった。福生市の現状等を含めながらの説明も必要と思う。
参加者との質疑応答の時間が欲しかった。
福生市の 40 年後の人口、生産人口推計はどれくらいになるのか具体的な数字で知りたい。施策として人口を増加させる工夫はできないのか。
多数の方が来ていた、机２人掛けから３人掛けに途中でも話を通してもらうべきであろう。今後の運営には一考を。

～みんなで描こう、将来の姿～

福生のハコモノ（公共施設）未来トーク報告書

発　行　令和２年５月

発行者　福生市

〒１９７―８５０１

東京都福生市本町５番地

編　集　福生市企画財政部行政管理課

電　話　０４２－５５１－１５１１（代）

https://www.city.fussa.tokyo.jp/